

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 名称と働き

この章は、サーバ本体、キーボード、マウス、ベースボードの各部の名称と働きを解説しています。

第2章 セキュリティについて

この章は、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るためのセキュリティ設備について解説しています。

第3章 基本的な操作

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピーディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

第4章 内蔵オプションの取り付け

この章は、本サーバへの内蔵オプションの取り付け方法を解説しています。

第5章 ハードウェアの設定について

この章は、本サーバを動かす上で必要となる環境設定の方法を解説しています。

第6章 保守について

この章は、日常のお手入れの方法やトラブル発生時の解決方法などの保守情報について解説しています。

第7章 技術情報

この章は、サーバ本体の仕様および運用上の留意点について解説しています。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本サーバをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本サーバをお使いください。
また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本サーバの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波ガイドライン適合品

PRIMERGY マニュアルについて

本サーバの主なマニュアルには、以下の種類があります。各マニュアルの概要は以下となっておりますので、必要に応じて参照してください。

『梱包物一覧』を除く各マニュアルは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下から参照できます。

[CD-ROM ドライブ] : ¥MANUAL¥INDEX. PDF

- 安全上のご注意
本サーバを正しくお使いいただくための重要な情報を記載しています。
本サーバをお使いになる前に熟読し、理解された上で本サーバをお使いください。
- 梱包物一覧
本サーバの梱包物／添付品の一覧を記載しています。
- はじめにお読みください
本サーバの開梱から運用までの流れを説明しています。
電源を入れる前にお読みください。
- ハードウェアガイド (本書)
内蔵オプション装置の取り付け、ハードウェアの設定、およびトラブルシューティングについて説明しています。
- ソフトウェアガイド
OS インストール方法、クライアントセットアップ方法、および運用支援ツールについて説明しています。
- ServerView ユーザーズガイド
ServerView の使用方法を説明しています。
- ServerView WebExtension ユーザーズガイド
ServerView WebExtension の使用方法を説明しています。
- REMCS エージェント運用ガイド
REMCS エージェントの使用方法を説明しています。
- プレインストールドライバ情報
OS インストールタイプにインストールされているドライバ情報について説明しています。

各マニュアルは、Adobe Systems 社の Acrobat® Reader で表示できます。

Acrobat® Reader は、バージョン 4.0 以降をご利用ください。



なお、Acrobat® Reader 5.0 は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下からインストールできます。

[CD-ROM ドライブ] : ¥MANUAL¥Setup¥Viewers¥Acrobat5¥ar500jpn. exe




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- 上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROMドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ] :¥ setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY L250	サーバ本体／本サーバ
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0	Windows NT Server 4.0

■ サーバのタイプの呼び方

本文中のタイプ名を次のように略して表記します。

タイプ	本文中の表記
OS がインストールされていないタイプ。	HD タイプ
HD タイプと区別するときに、OS がインストールされているタイプの総称。	OS インストールタイプ
Windows 2000 Server インストールタイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	Windows 2000 タイプ
Windows 2000 Server インストールおよびアレイシステム構成タイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	Windows 2000 アレイタイプ
Linux サービスバンドルタイプ。	Linux タイプ
Linux サービスバンドルアレイタイプ。	Linux アレイタイプ

警告ラベル／注意ラベル

本サーバには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Xeon は、米国インテル社の登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章 名称と働き

1.1 サーバ本体前面	12
1.2 サーバ本体背面	14
1.3 サーバ本体内部	15
1.4 キーボード／マウス	16
1.4.1 キーボード	16
1.4.2 マウス	16
1.5 ベースボード	17

第 2 章 セキュリティについて

2.1 セキュリティについて	20
2.1.1 ハードウェアのセキュリティ	20
2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ	21

第 3 章 基本的な操作

3.1 ラックドアを開ける	26
3.2 電源を入れる	28
3.3 電源を切る	29
3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し	31
3.4.1 取り扱い上の注意	31
3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し	33
3.5 CD-ROM のセット／取り出し	34
3.5.1 取り扱い上の注意	34
3.5.2 CD-ROM のセット	35
3.5.3 CD-ROM の取り出し	36

第 4 章 内蔵オプションの取り付け

4.1 内蔵オプションの種類	38
4.2 トップカバーの取り外し／取り付け	40
4.2.1 トップカバー 1 の取り外し	40
4.2.2 トップカバー 2 の取り外し	42
4.2.3 トップカバーの取り付け	42
4.3 CPU の取り付け	43
4.3.1 CPU 搭載時の注意と取り付け手順	43
4.3.2 故障 CPU の切り離し機能	46
4.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し	47
4.4.1 取り付け／取り外し時の手順と注意	48
4.4.2 故障メモリの切り離し機能	50

4.5 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け	51
4.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し	54
4.7 拡張カードの取り付け	58
4.7.1 拡張カードの種類	58
4.7.2 拡張カードの取り付け手順	60
4.7.3 SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードの留意事項	61
4.7.4 LAN カード／オンボード LAN の留意事項	62
4.7.5 ファイバーチャネルカード	62
4.7.6 リモートサービスボード	63
4.8 オプション装置の接続例	65
4.8.1 内蔵オプションの接続例	65
4.8.2 SCSI 外部オプションを接続する形態	68

第 5 章 ハードウェアの設定について

5.1 セットアップの概要	72
5.2 ハードウェアの設定	73
5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	74
5.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき	74
5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了	75
5.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作	77
5.3.4 Main メニュー	77
5.3.5 Advanced メニュー	81
5.3.6 Security メニュー	88
5.3.7 Boot メニュー	89
5.3.8 Server メニュー	90
5.3.9 Exit メニュー	92
5.4 SCSI Select ユーティリティを使う	93
5.4.1 SCSI Select ユーティリティの起動方法	93
5.4.2 メニューと項目一覧	96
5.4.3 Main メニュー	97
5.4.4 Configure/View SCSI Controller Setting メニューの詳細	98
5.4.5 SCSI Disk Utilities メニューの詳細	103
5.5 BIOS 設定情報の退避／復元	104

第 6 章 保守について

6.1 本サーバの確認	110
6.2 お手入れ	111
6.2.1 サーバ本体のお手入れ	111
6.2.2 キーボードのお手入れ	111
6.2.3 マウスのお手入れ	111
6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング	112
6.2.5 各オプション装置について	114
6.3 バックアップ	115

6.3.1 バックアップの必要性	115
6.3.2 バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用	115
6.4 トラブルシューティング	117
6.5 エラーメッセージ	120
6.6 イベントログ	122
6.6.1 イベントログの参照／消去	122
6.6.2 イベントログの採取	123
6.7 保守員に連絡するときは	126

第 7 章 技術情報

7.1 仕様	128
7.1.1 本体仕様	128
7.1.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様	130
7.2 24 時間運用上の留意点	131
7.3 LAN 経由の電源投入／切断時の留意点	132
7.4 リモートコントロール機能について	133
7.4.1 本サーバと PC の接続	133
7.4.2 Remote Control ユーティリティの操作	134
7.5 障害連絡シート	137

第 1 章

名称と働き

この章は、サーバ本体、キーボード、マウス、ベースボードの各部の名称と働きを解説しています。

章目次

1.1	サーバ本体前面	12
1.2	サーバ本体背面	14
1.3	サーバ本体内部	15
1.4	キーボード／マウス	16
1.5	ベースボード	17


1.1 サーバ本体前面

サーバ本体前面の名称は以下のとおりです。


ハードディスクアクセス表示ランプ

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み込んだりしているときに緑色に点灯します。

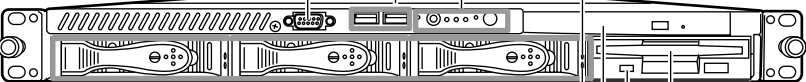
次ページ参照

USBコネクタ ()

USB (Universal Serial Bus) コネクタです。OSがWindows 2000 Serverの場合だけ、ご使用になれます。

シリアルポートコネクタ2 (9ピン) ()

モデムなどRS-232C規格の装置のケーブルを接続します。



内蔵ハードディスクドライブユニット

ハードディスク故障ランプ

アレイシステム構成時に、内蔵ハードディスクに異常が検出されたときオレンジ色に点灯します。

ランプは、ハードディスクの状態によって以下のように点灯 / 点滅します。

点灯している場合は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。

ランプの状態	ハードディスクの状態
消灯	正常時 / ホットスベア時
点灯	ハードディスク故障時
点滅	リビルド中 / ハードディスク交換中

CD-ROMドライブユニット (オプション)

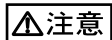
フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりしているときに緑色に点灯します。

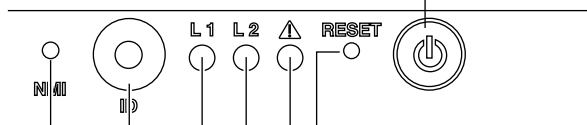
フロッピーディスクドライブユニット

電源スイッチ

サーバ本体に電源が入っているときに緑色に点灯します。電源が入っていないときはオレンジ色に点灯します(待機モード)。電源ケーブルをコンセントから抜いた場合は、点灯しません。



注意 ハードディスクアクセス表示ランプ/フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは、電源を切らないでください。ハードディスクのデータが破壊されるおそれがあります。



リセットスイッチ

このスイッチを押すと、システムがリセットされ、再起動します。

システム状態LED (△)

サーバ本体内の部品に異常が検出されたときにオレンジ色に点灯します。このランプが点灯している場合は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。

LAN2 LED

LAN1 LED

LANの状態を示すLEDです。
緑色に点灯：LINKの確率中
緑色に点滅：データ転送中

システム識別灯 (前面側)

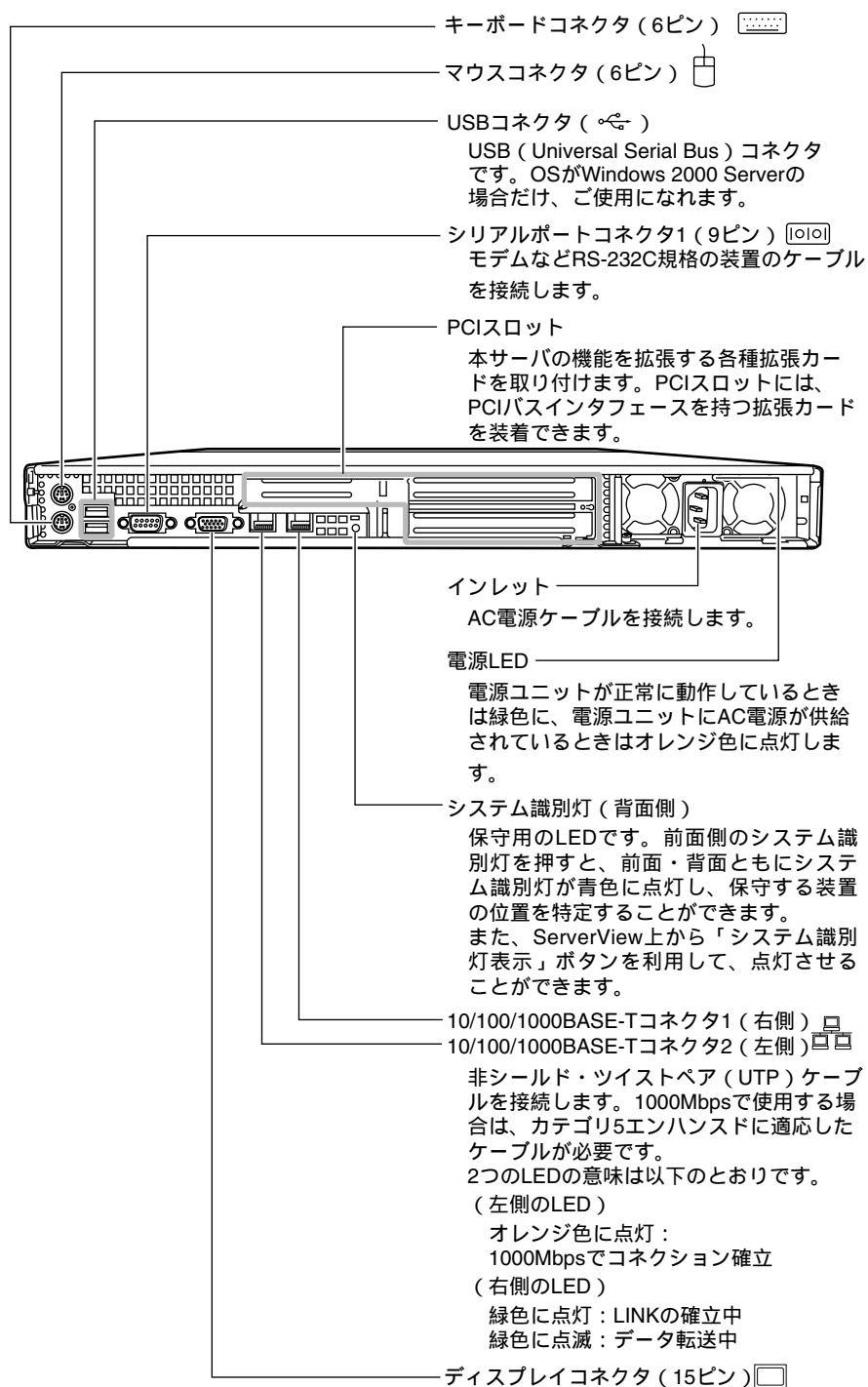
保守用のLEDです。押すと前面・背面ともにシステム識別灯が青色に点灯し、保守する装置の位置を特定することができます。
また、ServerView上から「システム識別灯表示」ボタンを利用して、点灯させることができます。

保守用スイッチ

保守員専用スイッチです。
触らないでください。

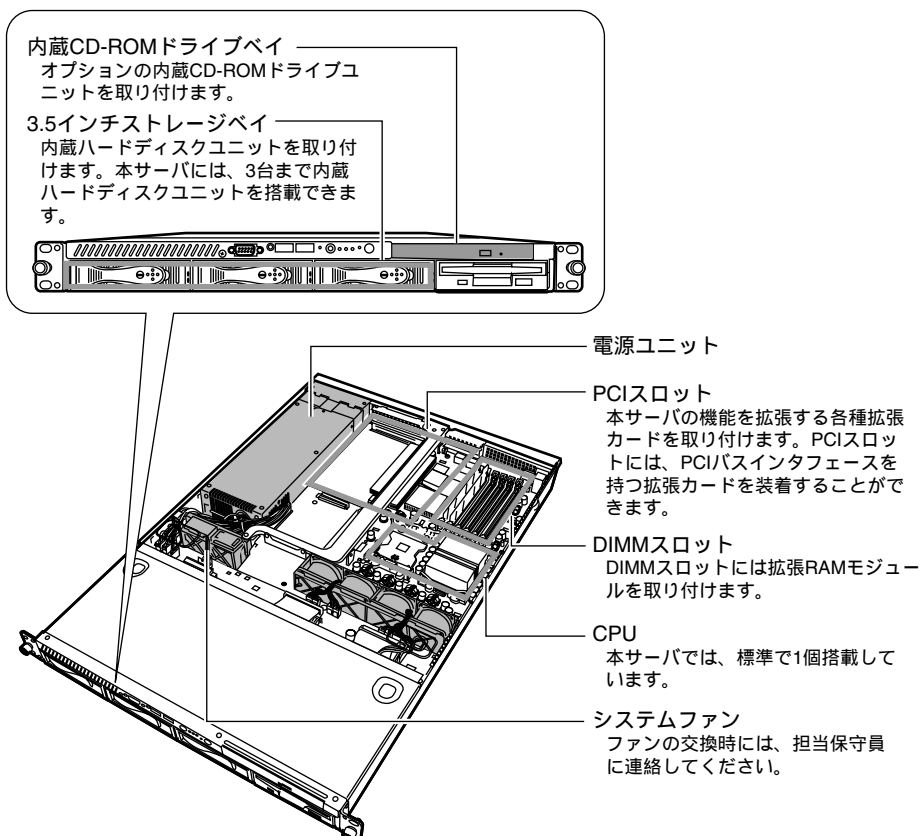
1.2 サーバ本体背面

サーバ本体背面の名称は以下のとおりです。



1.3 サーバ本体内部

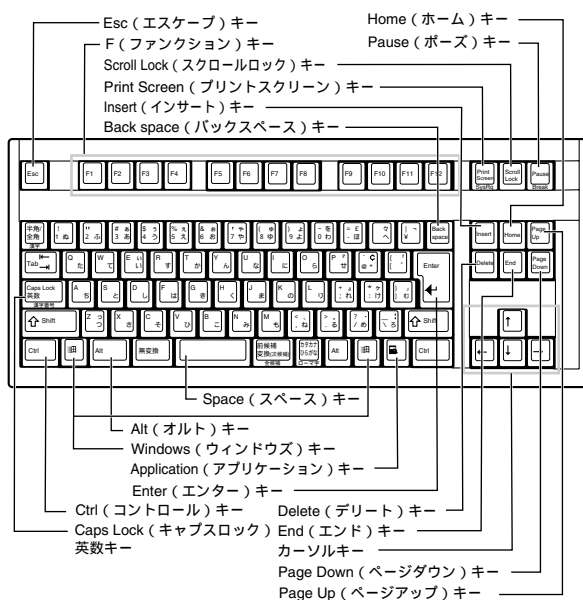
サーバ本体内部の名称は以下のとおりです。



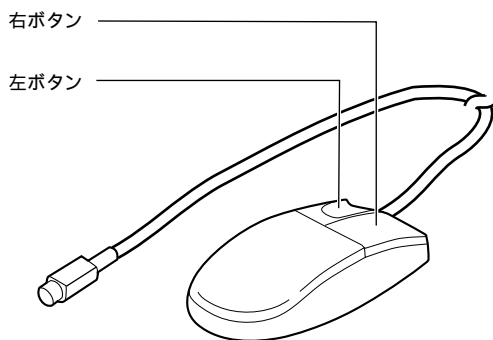
1.4 キーボード／マウス

本サーバには、オプションとして次のキーボードとマウスを用意しています。
キーボードの各種機能キーは、アプリケーションによって機能が異なります。

1.4.1 キーボード

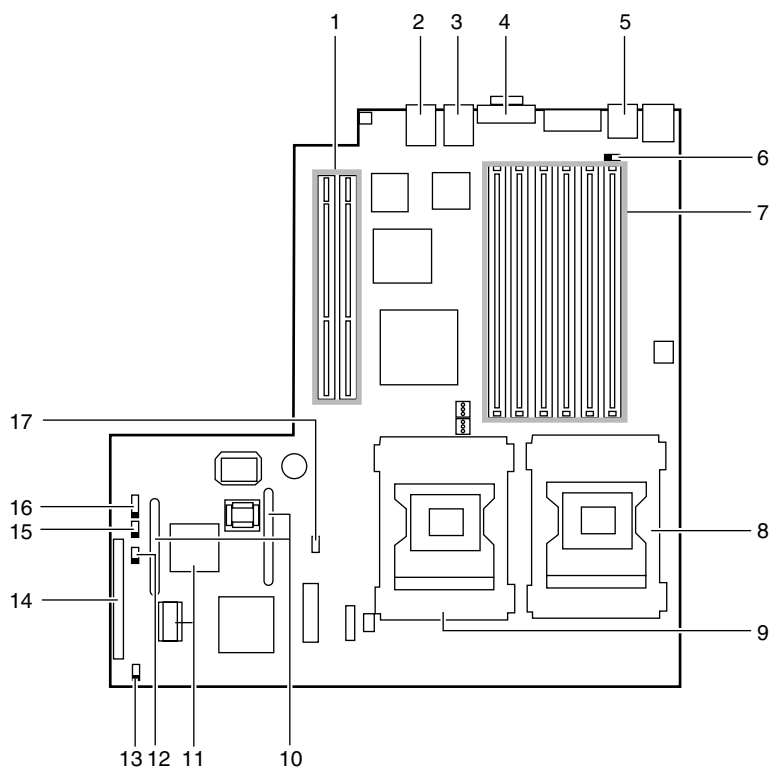


1.4.2 マウス



1.5 ベースボード

ベースボード各部の名称は以下のとおりです。



- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 PCIライザカードホストコネクタ | 11 ATI Rage XL |
| 2 LAN 1コネクタ | 12 JP9 |
| 3 LAN 2コネクタ | 13 CRL-CMOS |
| 4 ディスプレイコネクタ | 14 電源コネクタ |
| 5 USBケーブルコネクタ | 15 JP8 |
| 6 JP10 | 16 JP2 |
| 7 DIMMスロット | 17 サーバ制御ボード用電源コネクタ |
| 8 CPUソケット0 | |
| 9 CPUソケット1 | |
| 10 SCSI I/Oブリッジカードコネクタ | |

第2章

セキュリティについて

この章は、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るためのセキュリティ設備について解説しています。

章目次

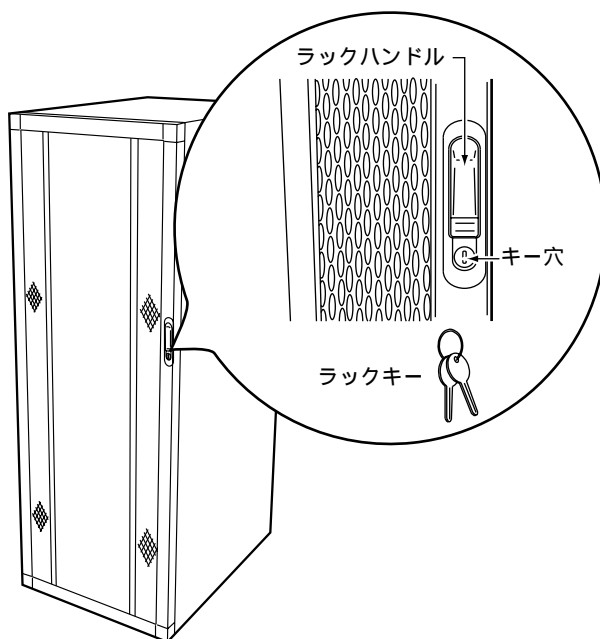
2.1 セキュリティについて	20
----------------------	----

2.1 セキュリティについて

本サーバでは、本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るための機械的なセキュリティ設備を用意しています。同時に、BIOS セットアップユーティリティなどによるセキュリティ機能も準備しており、より信頼度の高いデータセキュリティを実現します。

2.1.1 ハードウェアのセキュリティ

ラックドアを施錠すると、ラック内部のハードウェアの盗難を防ぐことができます。ラックドアを閉める場合は、ラックドアを閉じてラックハンドルを戻し、ラックキーを回します。



POINT

- ▶ ラックキーは紛失しないように注意してください。紛失した場合は担当営業員に連絡してください。
- ▶ ラックドアを開ける場合の手順については、「3.1 ラックドアを開ける」(→ P.26)を参照してください。
- ▶ その他のラックの詳細については、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ

本サーバのデータを守るためのパスワード機能を説明します。

本サーバは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。

パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本サーバを使えなくなります。

パスワードの設定は BIOS セットアップユーティリティで行います。BIOS セットアップユーティリティについては、「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(→ P.72) を参照してください。

■ パスワードの種類

本サーバで設定できるパスワードは次の 2 つです。

入力するパスワードにより、本サーバ操作の権限が区別されます。

- 管理者用パスワード (Supervisor Password)
特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS を起動できないようにします。
- ユーザ用パスワード (User Password)
特定の人だけが、本サーバを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、一部の BIOS セットアップおよび OS を起動できないようにします。

■ パスワードの設定方法

Supervisor Password および User Password の設定は、Security メニューで行います。

User Password を設定する場合には、先に Supervisor Password を設定する必要があります。

- 1** BIOS セットアップユーティリティを起動します。
→ 「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」(→ P.73)
- 2** メインメニューから【→】【←】キーで「Security」を選択します。
Security メニューが表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーで「Supervisor Password」、または「User Password」にカーソルを合わせ、【→】【←】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウに、「Enter new supervisor password」または「Enter new user password」と表示されます。
- 4** 8 桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、ブロックのみが表示されます。
- 5** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押します。
パスワード確認用のウィンドウに、「Retype new supervisor password」または「Retype new user password」と表示されます。

- 6** 手順4で入力したパスワードを再び入力し、【Enter】キーを押します。
「New supervisor password installed」または「New user password installed」と表示されます。
再入力したパスワードが手順2で入力したものと一致しない場合は、再び手順2と同じ画面が表示されます。再びパスワードを入力してください。
- 7** 何かキーを押して、Securityメニューに戻ります。
- 8** BIOS セットアップユーティリティを終了します。
→「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」(→P.73)

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、システムが停止します。その場合は、本サーバの電源をいったん切ってから、再び電源を入れ、その後正しいパスワードを再入力してください。
- ▶ パスワードを忘れてしまい、本サーバを起動できなくなった場合は、ベースボード上のジャンパピン
の設定によりパスワードを解除できます(「5.2 ハードウェアの設定」(→P.71))。
そのあと、ジャンパの設定を戻してから、本ユーティリティでパスワードを設定してください。

■ パスワードの削除／変更方法

Supervisor Password および User Password の削除や変更は、Security メニューで行います。

● Supervisor Password

- 1** BIOS セットアップユーティリティを起動します。
→「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」(→P.73)
- 2** メインメニューから【→】【←】キーで「Security」を選択します。
Securityメニューが表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーで「Supervisor Password」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウに「Enter current supervisor password」と表示されます。
- 4** 現在設定されているパスワードを入力します。
「Enter new supervisor password」と表示されます。
パスワードの削除／変更をキャンセルする場合は、【Enter】キーを押します。「Supervisor Password disabled Any key to Continue」と表示されるので、何かキーを押して BIOS セットアップユーティリティを終了します。
- 5** 新しいパスワードを入力します。
「Retype new supervisor password」と表示されます。
- 6** 手順5で入力したパスワードをもう一度入力します。
「New supervisor password installed Any key to Continue」と表示されます。
- 7** 何かキーを押して、BIOS セットアップユーティリティを終了します。

● User Password

- 1** BIOS セットアップユーティリティを起動します。
→「5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了」(→ P.73)
- 2** メインメニューから【→】【←】キーで「Security」を選択します。
Security メニューが表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーで「User Password」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
「Enter new user password」と表示されます。
パスワードの削除／変更をキャンセルする場合は、【Enter】キーを押します。「User Password disabled Any key to Continue」と表示されるので、何かキーを押して BIOS セットアップユーティリティを終了します。
- 4** 新しいパスワードを入力します。
「Retype new user password」と表示されます。
- 5** 手順 4 で入力したパスワードをもう一度入力します。
「New user password installed Any key to Continue」と表示されます。
- 6** 何かキーを押して、BIOS セットアップユーティリティを終了します。

第 3 章

3

基本的な操作

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピーディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

章目次

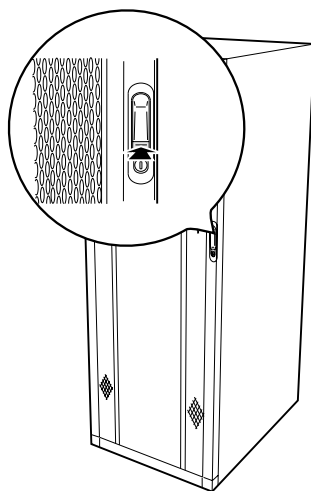
3.1 ラックドアを開ける	26
3.2 電源を入れる	28
3.3 電源を切る	29
3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し	31
3.5 CD-ROM のセット／取り出し	34

3.1 ラックドアを開ける

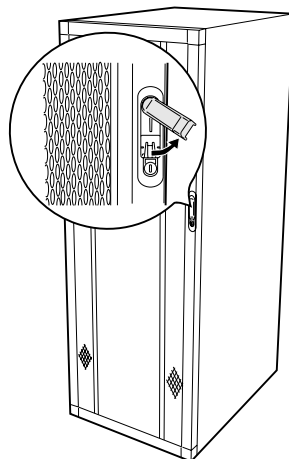
ここでは、ラックのフロントドアおよびリアドアを開ける方法について説明します。
なお、40Uのスリムラックを元に説明しています。その他のラックについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

■ フロントドアの開け方

- 1 ラックキーを回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。
ラックハンドルが前に上がります。

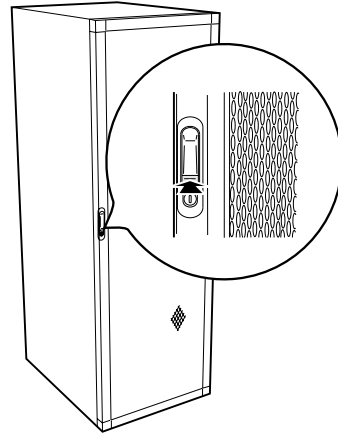


- 2 ラックハンドルを矢印方向に回して、手前に引きます。

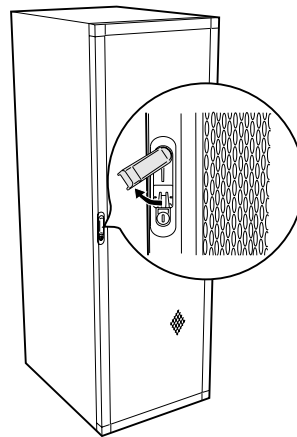


■ リアドアの開け方

- 1 ラックキーを回し、ラックハンドルの下部（図中の矢印部）を押します。
ラックハンドルが前に上がります。



- 2 ラックハンドルを矢印方向に回して、手前に引きます。



POINT

- ▶ 通常の使用時（媒体の出し入れ、電源の ON/OFF 以外）には、ラックドアを閉めた状態でご使用ください。携帯電話などの外部からの電波を防ぎます。
- ▶ ラックキーは、紛失しないように注意してください。紛失した場合は、担当営業員に連絡してください。

3.2 電源を入れる

⚠ 注意



禁止

- 電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。



禁止

- サーバ本体環境条件の温度条件（10 ～ 35 °C）の範囲内で電源の投入を行ってください。サーバ本体の環境条件については『はじめにお読みください』を参照してください。サーバの保証温度範囲内で使用しないと「データの破損」や「動作が不安定になる」などの問題が発生する場合があります。サーバ本体を動作保証温度範囲外で使用した場合に破損や故障が発生しても当社は一切の責任を負いません。



禁止

- 本サーバの電源投入直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。サーバ本体環境条件の温度条件（10 ～ 35 °C）の範囲内であれば、しばらくしてから、通常の回転になります。

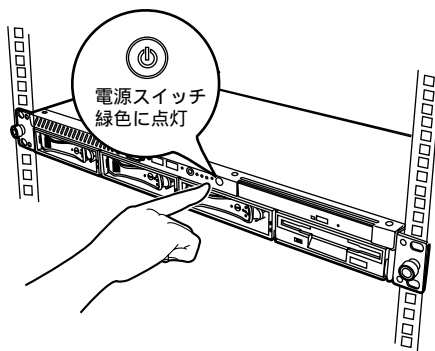


禁止

- 電源を切ったあと、すぐに電源を入れる場合は、必ず 10 秒以上待ってから電源を入れてください。

- 1 ラックドアを開けます。
- 2 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。
- 3 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。
- 4 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

電源スイッチが緑色に点灯します。
電源が入ると、本サーバはサーバ本体の装置をチェックする「POST（Power On Self Test: パワーオンセルフテスト）」を行います。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます（「第 6 章 保守について」－「6.5 エラーメッセージ」（→ P.120））。



POINT

- ▶ 添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入／切断時刻を設定できます。詳細は『ServerView ユーザーズガイド』および Hints.txt を参照してください。

3.3 電源を切る

⚠ 注意



● 以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。



● 発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・感電の原因となります。

1 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。

2 OS を終了します。

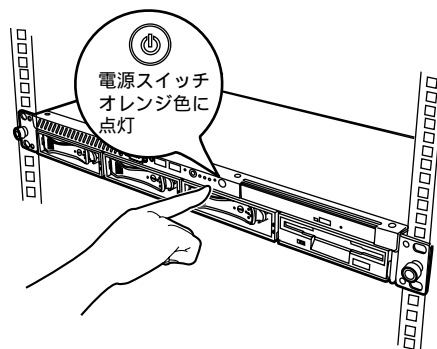
以下の場合、OS 終了後サーバ本体の電源が切れます（手順 3 の操作は必要ありません）。

- ・ OS が Windows 2000 Server の場合
- ・ ServerView がインストールされている場合

その他の場合は、OS を終了し、フロッピーディスクとハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

3 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

電源スイッチがオレンジ色に点灯します。



4 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。

⚠ 注意



● 電源を切ったあと、すぐに電源を入れる場合は、必ず 10 秒以上待ってから電源を入れてください。

POINT

- ▶ 添付の ServerView を使って、サーバ本体の電源の投入／切断時刻を設定できます。詳細は『ServerView ユーザーズガイド』および Hints.txt を参照してください。

■ 電源操作の注意事項について（OS が Windows 2000 Server の場合）

電源スイッチの動作モードは、OS の設定により「スタンバイ」、「休止状態」、「電源オフ」の指定ができます（通常は「電源オフ」）。

本サーバでは、スタンバイ／休止状態に相当する機能は、BIOS／ハードウェアの機能としてサポートしていますが、本サーバに搭載される一部のドライバ／ソフトウェアでは、当機能をサポートしていません。このため「スタンバイ」と「休止状態」に相当する機能については、本サーバでは使用できません。

なお、動作モードを「スタンバイ状態」または「休止状態」に設定した場合、システムが不安定になったり、ハードディスクのデータが破壊されたりするおそれがあります。

動作モードの設定については、OS に添付のマニュアルを参照してください。

3.4 フロッピーディスクのセット／取り出し

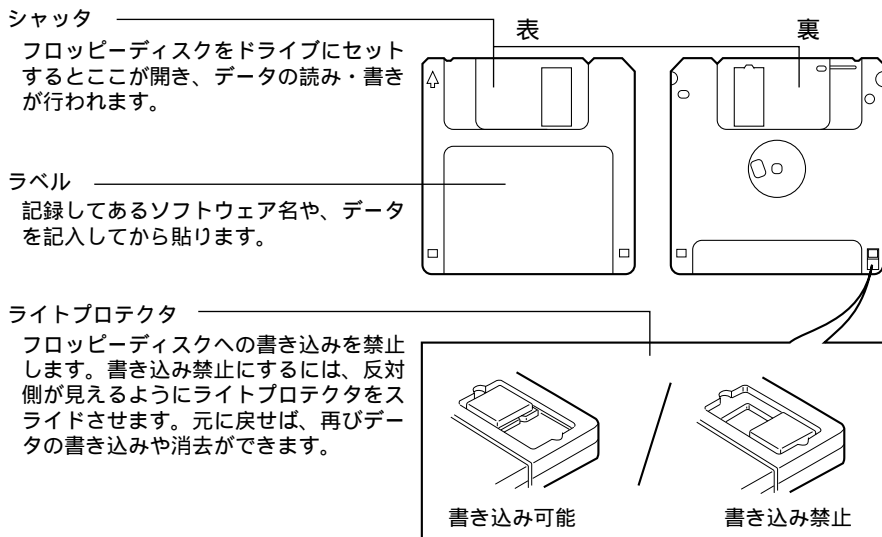
フロッピーディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.4.1 取り扱い上の注意

フロッピーディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- ・ コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- ・ シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- ・ 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- ・ 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- ・ 固い床などに落とさないでください。
- ・ 高温／低温の場所に保管しないでください。
- ・ ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。

■ フロッピーディスクの外観



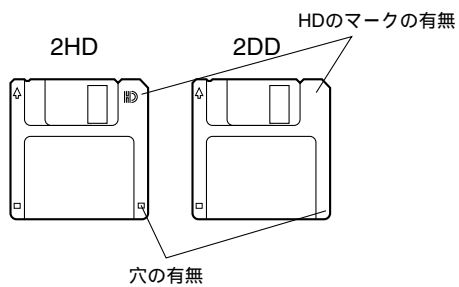
POINT

▶ フロッピーディスクについて

本サーバでは以下の2種類のフロッピーディスクを使用できます。

- ・ 2HD（記憶容量 1.44MB）
- ・ 2DD（記憶容量 720KB）

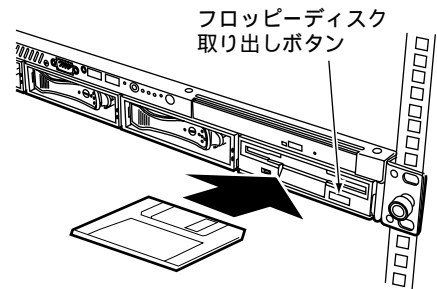
2種類の外見上の違いは、図のとおりです。



3.4.2 フロッピーディスクのセットと取り出し

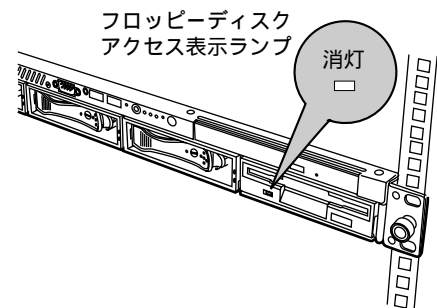
■ フロッピーディスクのセット

- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
カシャッと音がし、フロッピーディスク取り出しボタンが出てきます。



■ フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



⚠ 注意



- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

3.5 CD-ROM のセット／取り出し

CD-ROM のセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

本サーバではオプションとして、CD-ROM ドライブユニットを用意しています。

3.5.1 取り扱い上の注意

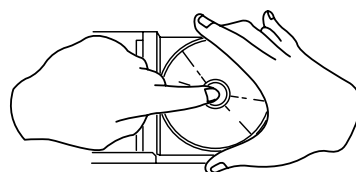
故障などを防ぐため、内蔵 CD-ROM ドライブユニットや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブユニット

- 湿気やほこりなど、浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
- 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
- トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
- トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
- CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。
- トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いた柔らかい布をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

■ CD-ROM

- ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンターホルダーを押さえながら持ち上げてください。

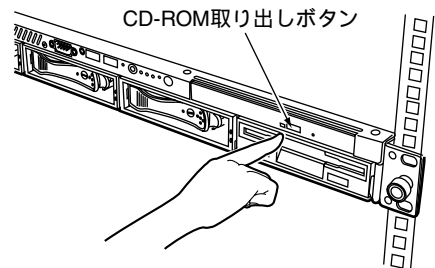


- CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- レーベル面にラベルなどを貼り付けしないでください。編芯によって、異常振動が発生する場合があります。

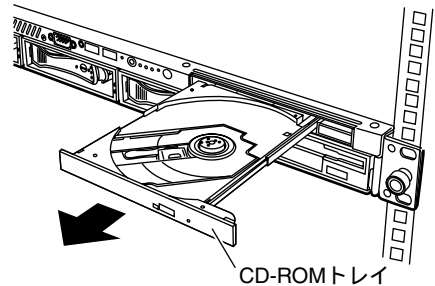
- ・ 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面に水滴がついて、CD-ROM ドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。
- ・ ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- ・ 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

3.5.2 CD-ROM のセット

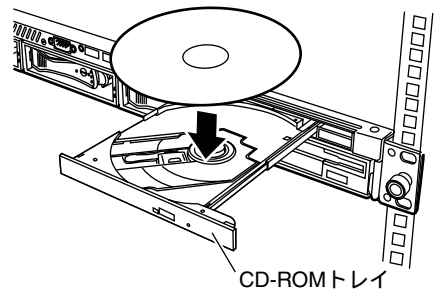
- 1** サーバ本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押します。
トレイが少し出ます。



- 2** 出てきたトレイを引き出します。



- 3** CD-ROM のレーベル面を上にして、トレイ中央に置きます。
トレイの下側を手で支えて、CD-ROM をカチッと音がするまではめ込みます。



⚠ 注意



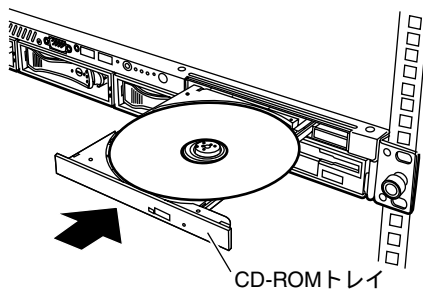
● CD-ROM のセットが不十分のまま CD-ROM トレイを閉めると、CD-ROM ドライブや CD-ROM の破損となるおそれがありますので注意してください。



● CD-ROM セット時には、レンズに触れないよう注意してください。

4 トレイを戻します。

トレイがカチッと音がるまで静かに押し込みます。



🔍 POINT

- ▶ 本サーバの内蔵 CD-ROM ドライブユニットでは、下図のマークがついた CD-ROM をご利用になれます。



3.5.3 CD-ROM の取り出し

CD-ROM の取り出しは、「3.5 CD-ROM のセット／取り出し」(→ P.34) の手順 1 ～ 2 のように、CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押して行います。

第 4 章

内蔵オプションの取り付け

この章は、本サーバへの内蔵オプションの取り付け方法を解説しています。

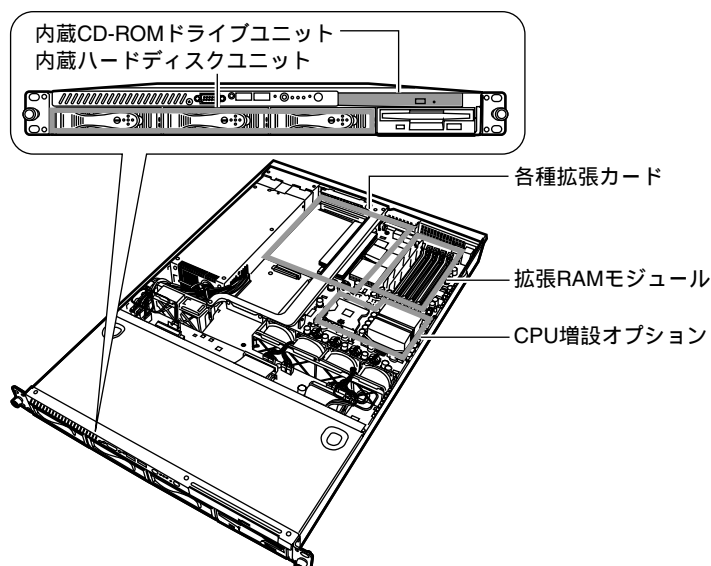
内蔵オプションの取り付け／取り外しを行う場合は、担当保守員に依頼してください。

章目次

4.1 内蔵オプションの種類	38
4.2 トップカバーの取り外し／取り付け	40
4.3 CPU の取り付け	43
4.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し	47
4.5 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け	51
4.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し ...	54
4.7 拡張カードの取り付け	57
4.8 オプション装置の接続例	64

4.1 内蔵オプションの種類

本サーバには、以下の内蔵オプションを取り付けることができます。



POINT

- ▶ 内蔵オプションの取り付けや取り外し作業で取り外したネジは、必ず同じ装置／場所に取り付けてください。異なる種類のネジを使用すると、装置の故障の原因となります。
- ▶ 本書に記載されている取り付け可能なオプションの種類は予告なく変更される場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

警告



- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、サーバ本体および接続している周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から抜いたあとに行ってください。感電の原因となります（「3.3 電源を切る」(→ P.29)）。



- 電源ユニットは分解しないでください。感電の原因となります。



- 弊社の純正品以外のオプションは取り付けしないでください。故障・火災・感電の原因となります。



- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意



● 電源を切った直後は、サーバの内部の装置が熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあとしばらく待ってから、作業を始めてください。



● 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



● 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

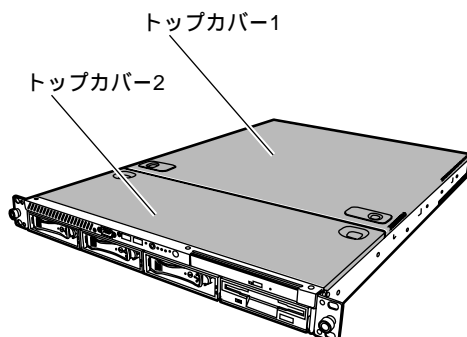


● この章で説明している以外の取り付け方や分解を行った場合は、保証の対象外となります。

4.2 トップカバーの取り外し／取り付け

ここでは、トップカバーの取り外しについて説明します。

トップカバーには、トップカバー1とトップカバー2があります。



⚠ 警告



- 各カバーの取り外し、取り付けを行うときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります（「3.3 電源を切る」(→ P.29)）。

⚠ 注意



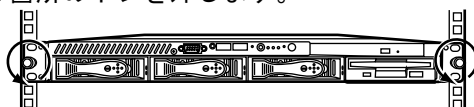
- 内蔵オプションを取り扱う場合には、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。
また、基板表面、半田づけ部、およびコネクタ部には触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。



- サーバ本体に電源を入れるときは、必ずトップカバーをすべて取り付けた状態で行ってください。

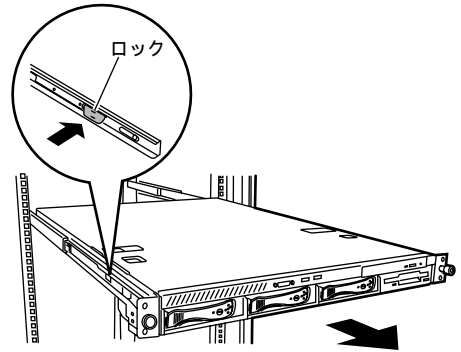
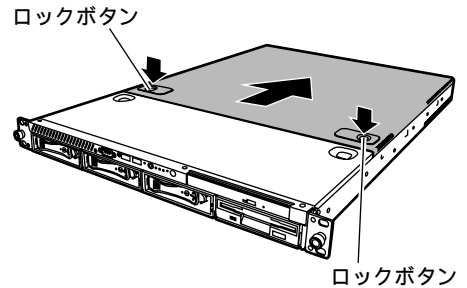
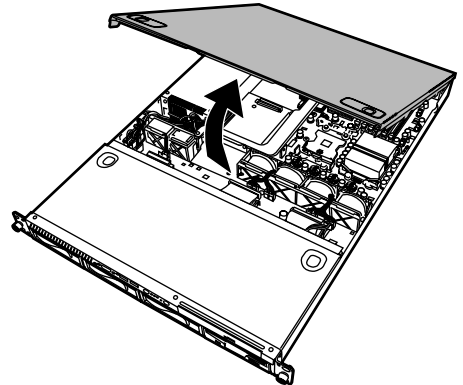
4.2.1 トップカバー 1 の取り外し

- 1 サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
- 2 サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3 サーバ本体に接続されているケーブル類（SCSI ケーブル、LAN ケーブルなど）をすべて取り外します。
- 4 サーバ本体とラックを固定している2箇所のネジを外します。



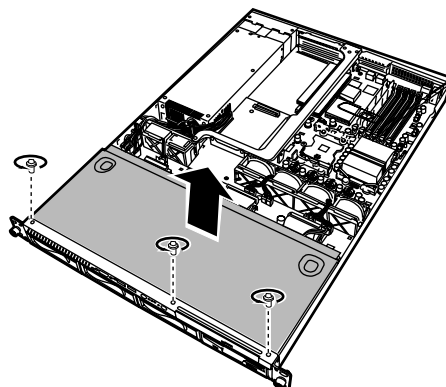
5 サーバ本体をスライドさせます。

左右の側面に取り付けられているインナーレールのロックを内側に押しながら、サーバ本体をロックがかかるまで引き出します。

**6** ロックボタンを押しながらトップカバーを後方に少しスライドさせます。**7** トップカバーを持ち上げて、サーバ本体から取り外します。

4.2.2 トップカバー 2 の取り外し

- 1** トップカバー 1 を取り外します。
→「4.2.1 トップカバー 1 の取り外し」(→ P.40)
- 2** トップカバー 2 をサーバ本体から取り外します。
上面3箇所のネジを取り外し、トップカバー
2 を後方にスライドさせてから、持ち上げ
て取り外します。



4.2.3 トップカバーの取り付け

トップカバーの取り付けは、取り外し手順と逆の手順で行います。

⚠ 注意



- トップカバーを取り付けるときに、サーバ本体内部に不要な部品や工具を置き忘れたままにしないようにご注意ください。

4.3 CPU の取り付け

本サーバは「CPU 増設オプション」を用いて、最大 2 つの CPU を搭載できます。
なお、搭載する CPU は、すべて同じ周波数の CPU を搭載してください。

⚠ 警告

感 電



- 取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください（「3.3 電源を切る」（→ P.27））。
感電したり機器が故障するおそれがあります。

⚠ 注意



- 弊社純正の CPU 増設オプション以外は取り付けないでください。故障の原因となります。



- 周波数の異なる CPU を混在させないでください。システムが起動しません。



- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむき出しになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



- 基板の表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

4.3.1 CPU 搭載時の注意と取り付け手順

- ・ 本サーバで使用できる CPU 増設オプションには、以下の種類があります。
なお、搭載する CPU 増設オプションは、すべて同じ周波数の CPU を搭載してください。

品名（型名）	備考
Xeon™ プロセッサ 1.8GHz/512KB（PG-FG11W）	1.8GHz 用
Xeon™ プロセッサ 2.4GHz/512KB（PG-FG117）	2.4GHz 用

- ・ OS を変更してください。
以下の場合、マルチプロセッサカーネルへの変更を行ってください。
 - ・すでにユニプロセッサカーネルで OS を運用している場合
 - ・CPU を 1 つ使用時にハイパースレッディング機能を有効にした場合

POINT

- ▶ ハイパースレッディング機能を使用するには、OS やアプリケーションが対応している必要があります。

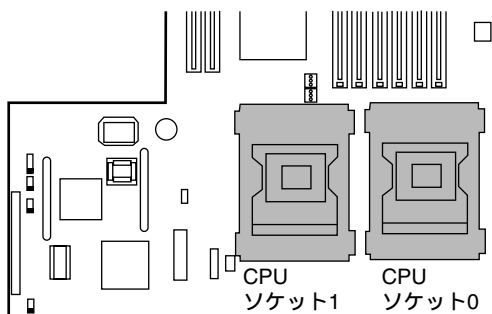
Windows 2000 Server および Windows NT Server 4.0 の場合は、OS を変更することで、マルチプロセッサカーネルに変更できます。OS の変更方法については、『ソフトウェアガイド 第7章 ハードウェア増設時の操作』を参照してください。

Linux タイプ／Linux アレイタイプをご購入のお客様は、本体に添付される Linux 関連マニュアルを参照してください。

HD タイプで Linux ディストリビューションをご使用のお客様は、弊社ホームページ PRIMESERVER WORLD LINUX 関連情報 (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/linux>) を参照してください。

- CPU はソケット番号順 (CPU ソケット 0 → CPU ソケット 1) に搭載してください。
なお、CPU ソケット 0 には、CPU を標準搭載しています。

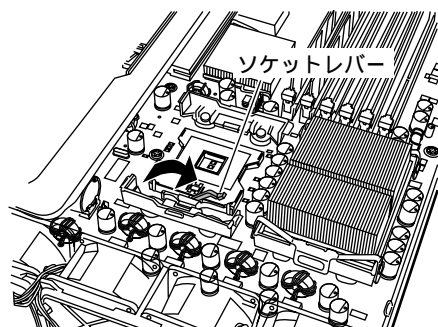
ベースボード



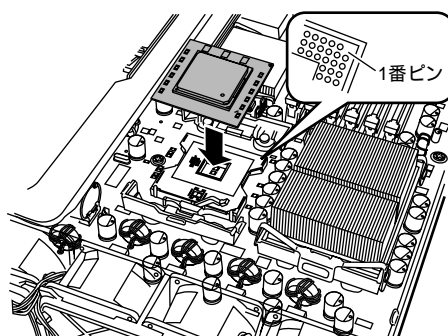
■ CPU の取り付け手順

- 1** サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
→ 「3.3 電源を切る」 (→ P.27)
- 2** トップカバー 1 を取り外します。
→ 「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」 (→ P.40)
- 3** サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。

- 4** ソケットレバーを解除します。
ソケットレバーをゆっくりと上げて解除します。



- 5** CPU を取り付けます。
CPU ソケット側の 1 番ピンを確認し、CPU のピンと CPU ソケットのピン穴が合うように取り付けます。



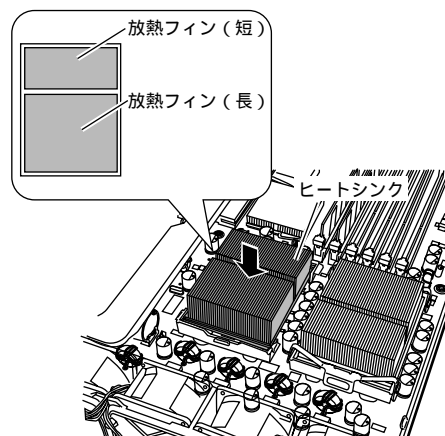
⚠ 注意



● CPU のピンが曲がらないように十分注意して CPU ソケットに CPU を取り付けてください。

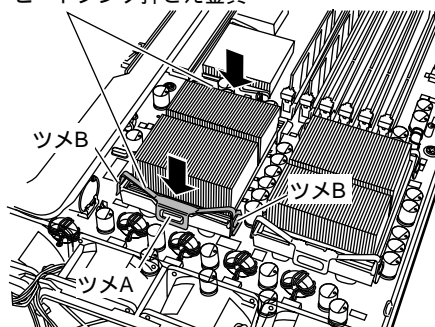
- 6** ソケットレバーを戻して CPU を CPU ソケットに固定します。

- 7** ヒートシンクを取り付けます。
ヒートシンクの向きを間違えないように、CPU の上に装着します。
長い方の放熱フィンが、サーバ本体前面側に来るように装着します。



8 ヒートシンク押さえ金具を、ヒートシンクの両側に取り付けます。

ツメ A に金具を合わせて掛け、金具の両脇 ヒートシンク押さえ金具
を押してツメ B に掛けます。



9 トップカバー 1 を取り付けます。

→「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」(→ P.40)

10 サーバ本体をラックに戻します。

4.3.2 故障 CPU の切り離し機能

本サーバには、故障 CPU の切り離し機能があります。

この機能は、POST 実行中に故障（異常）と判断した CPU を切り離して本サーバを起動します。たとえば CPU を 2 つ搭載している場合で、1 つの CPU が故障している場合は、1 つの CPU で起動します。

故障した CPU は、POST 時の画面表示で確認できます。

■ 故障した CPU の取り外し

故障した CPU は、「4.3.1 CPU 搭載時の注意と取り付け手順」(→ P.43)を参照して取り外してください。

POINT

- ▶ CPU の交換後は、必ず BIOS セットアップユーティリティを起動して、Server メニュー内の CPU Reduction Info. Clear を「No」から「Yes」に変更してください。
この変更によって、次のサーバ起動時に故障 CPU のステータスが解除され、新しい CPU を使用することができます。「Yes」に変更しないと、故障と認識されたまま常に切り離されて本サーバは起動してしまいます。
→「5.3.8 Server メニュー」－「CPU Reduction Info.Clear」(→ P.90)

4.4 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し

拡張 RAM モジュールは、ベースボードの DIMM (Dual In-Line Memory Modules) スロットに取り付けます。

警告

感 電



- 取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります(「3.3 電源を切る」(→ P.29))。

注意

禁 止



- 弊社純正の拡張 RAM モジュール以外は取り付けしないでください。故障の原因となります。



- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

4.4.1 取り付け／取り外し時の手順と注意

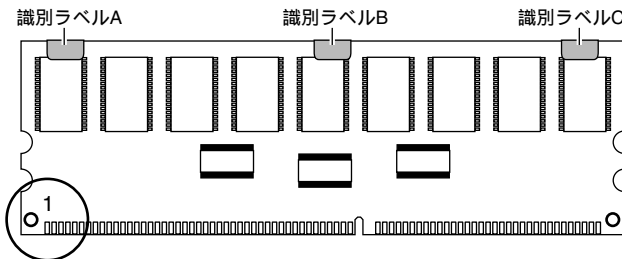
ここでは、拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し手順と注意事項について説明します。

■ 取り付ける前に

- ・ 本サーバの拡張 RAM モジュールは、DIMM2 枚 1 組で構成されており、2 枚ずつ増設します。
- ・ 拡張 RAM モジュールは、同一容量の DIMM2 枚を一組にして取り付けてください。その際、DIMM に貼ってあるラベルに記載された「CA…」で始まる表示番号（例：CA05946-E101）が 2 枚とも一致していることを確認し、必ず同じ番号のものを一組にして搭載してください。

また、識別ラベルがある場合は、同一容量で識別ラベルが同一位置に貼ってある DIMM2 枚を一組にして取り付けてください。

以下に、識別ラベルの貼り付け位置を示します。



ピン番号 1（図中の丸で囲まれた部分）を左にして、ラベル位置を識別してください。識別ラベルは、次のパターンで DIMM に貼り付けられています。

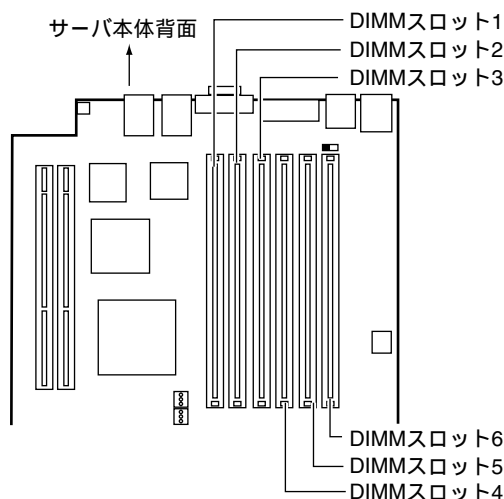
パターン	識別ラベル A	識別ラベル B	識別ラベル C
1	—	—	—
2	○	—	—
3	—	○	—
4	—	—	○
5	○	○	—
6	○	—	○
7	—	○	○
8	○	○	○

○：識別ラベルあり —：識別ラベルなし

- ・ 本サーバに使用できる拡張 RAM モジュールは以下の種類があります。

品名（型名）	備考
拡張 RAM モジュール 256MB（PG-RM25R）	256MB
拡張 RAM モジュール 512MB（PG-RM51R）	512MB
拡張 RAM モジュール 1GB（PG-RM1R）	1GB
拡張 RAM モジュール 2GB（PG-RM2R）	2GB

- 拡張モジュールは、DIMM スロット 1 より順に搭載してください。

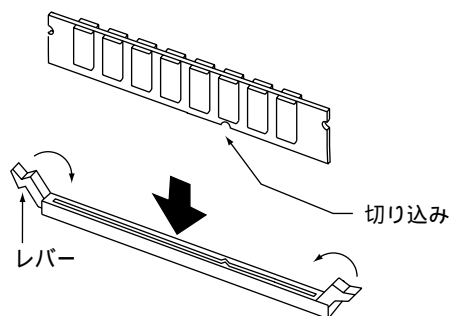


■ 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外し手順

- 1 電源を切り、トップカバー 1 を取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」(→ P.40)
- 2 サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3 拡張 RAM モジュールの取り付け／取り外しをします。

取り付けるときは、コンタクト部分の切り込みで向きを判断して、DIMM スロットに正しく挿入してください。レバーが閉じます。レバーが完全に閉じない場合は、指で押してください。

取り外すときは、メモリの実装されている両端のレバーを開きます。



- 4 拡張 RAM モジュールが奥まで完全に挿し込まれたのを確認します。
- 5 トップカバー 1 を取り付けます。
→「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」(→ P.40)

4.4.2 故障メモリの切り離し機能

本サーバには、故障メモリ（RAM モジュール）の切り離し機能があります。

この機能は、POST（Power On Self Test）実行中に故障（異常）と判断したメモリを切り離して本サーバを起動します。POST 時に画面に表示されるメモリ容量が実装したメモリ容量より小さくなっている場合は、故障メモリが存在する可能性があります。

故障メモリのスロット位置は、POST 時またはシステムイベントログで確認できます。

故障メモリが存在する場合はメモリを交換して、本サーバを再起動してください。

■ 故障したメモリの取り外し

故障したメモリは、「4.4.1 取り付け／取り外し時の手順と注意」（→ P.48）に従って新しいメモリに交換します。

POINT

- ▶ メモリの交換後は、必ず BIOS セットアップユーティリティを起動して、Server メニューの Memory Reduction Info. Clear を「No」から「Yes」に変更してください。
これによって、次のサーバ起動時に故障メモリのステータスが解除され、新しいメモリを使用できます。
「Yes」に変更しないと、故障と認識されたまま常に切り離されて本サーバは起動してしまいます。
→ 「5.3.8 Server メニュー」－「Memory Reduction Info.Clear」（→ P.90）

4.5 内蔵 CD-ROM ドライブユニットの取り付け

ここでは、内蔵 CD-ROM ドライブユニット(オプション)の取り付け方を説明します。

本サーバに取り付けられる内蔵 CD-ROM ドライブユニットは、内蔵 CD-ROM ドライブユニット (PG-CD316) です。

⚠ 警告



- 取り付けや取り外しをするときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外してください。感電の原因となります(「3.3 電源を切る」(→ P.29))。

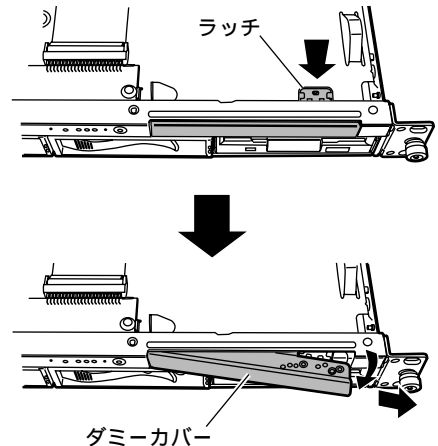
⚠ 注意



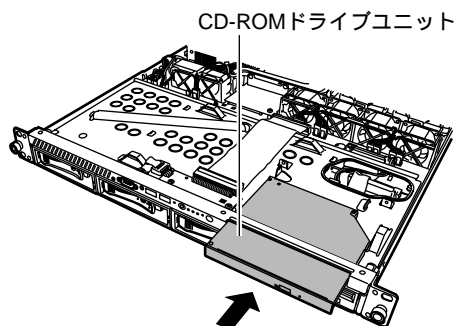
- 内蔵 CD-ROM ドライブユニットを取り付けるときは、CD-ROM ドライブユニットの側面を持ってください。
上面に力が加わると、故障の原因になります。

■ 取り付け／取り外し手順

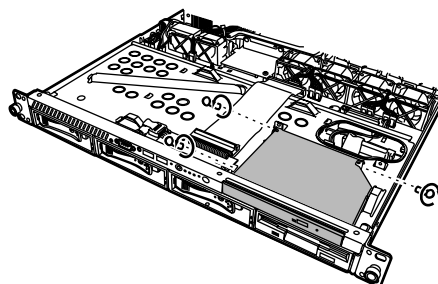
- 1 電源を切り、2 つのトップカバー (1 と 2) を取り外します。
→ 「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」(→ P.40)
- 2 サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。
- 3 内蔵 CD-ROM ドライブユニットからダミーカバーを取り外します。
上部のラッチを下に押しながらダミーカバーの一方を引き出してから、ダミーカバーを引いて取り外します。



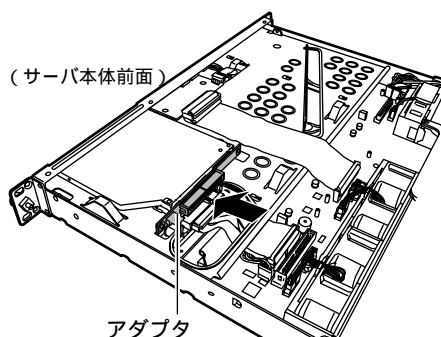
- 4** 内蔵 CD-ROM ドライブユニットを、内蔵 CD-ROM ドライブベイに差し込みます。



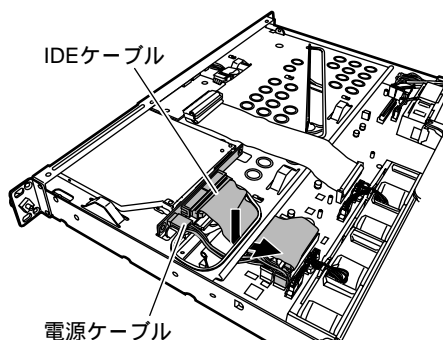
- 5** 内蔵 CD-ROM ドライブユニットを固定します。
側面 3 箇所をネジで固定します。



- 6** 内蔵 CD-ROM ドライブユニットにアダプタを取り付けます。
内蔵CD-ROMドライブユニット背面のコネクタに、アダプタを接続します。

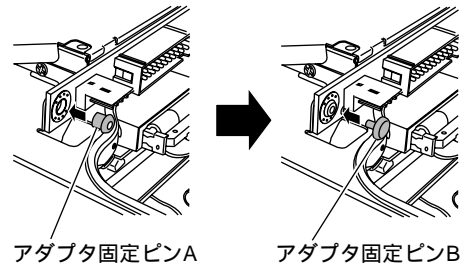


- 7** IDE ケーブルと電源ケーブルを接続します。
内蔵CD-ROMドライブユニットのアダプタに、添付のケーブルを接続します。
IDE ケーブルと電源ケーブルをサーバ本体前側の天板の穴にケーブルをくぐらせ、ベースボードに接続します。



8 アダプタを固定します。

アダプタ固定ピン A を取り付けたあと、アダプタ固定ピン B をピン A に差し込んで、アダプタを固定します。

**9 サーバ本体にトップカバー（1 と 2）を取り付け、元の位置に戻します。**

→「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」（→ P.40）

POINT

- ▶ 取り外しは、上記と逆の手順で行います。

4.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し

ここでは、内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し方法について説明します。

⚠ 注意



- ハードディスクユニットを乱暴に取り扱うと、内部のデータが破壊されることがあります。万が一の事態に備えて、重要なデータは常にバックアップをとるようにしてください。また、別のハードディスクユニットにバックアップをとるときは、ファイル単位または区画単位でバックアップすることをお勧めします。



- 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。



- 衝撃や振動の加わる場所での使用は避けてください。



- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。



- 極端な高温や低温の場所、また温度変化の激しい場所での使用は避けてください。



- ハードディスクユニットは絶対に分解しないでください。



- ハードディスクユニットをぶつけたり、金属質のものを接触させたりしないよう十分注意し、取り扱いってください。

本サーバに搭載できる内蔵ハードディスクユニットを以下に示します。

品名	型名	概要
内蔵ハードディスクユニット 18GB	PG-HDH81J	18.2GB、10,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 18GB	PG-HDH85J	18.2GB、15,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 36GB	PG-HDH61J	36.4GB、10,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 36GB	PG-HDH65J	36.4GB、15,000rpm、Ultra 160 SCSI
内蔵ハードディスクユニット 73GB	PG-HDH71J	73.4GB、10,000rpm、Ultra 160 SCSI

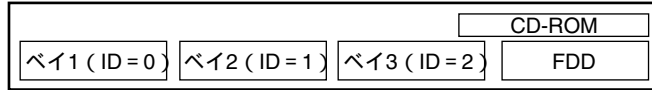
3.5 インチストレージベイは、SCSI ID の設定が不要です。

3.5 インチストレージベイにはホットプラグを採用しており、内蔵ハードディスクユニットのインタフェースに SCA2 (Single Connector Attachment2) コネクタを採用しています。電源ケーブルと信号ケーブルを一体化しているため、煩わしいケーブル接続が一切不要となります。

■ 3.5 インチストレージベイと SCSI ID

以下に、3.5 インチストレージベイのベイ番号と SCSI ID を示します。

(サーバ本体前面)



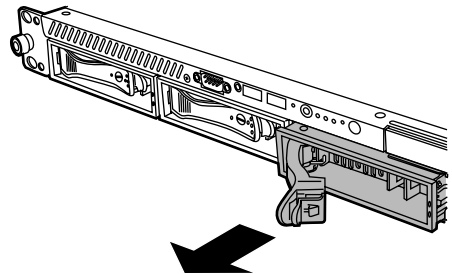
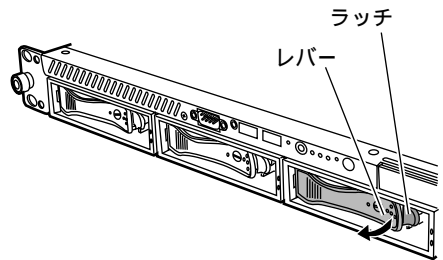
- 内蔵ハードディスクユニットは、ベイ 1 → ベイ 2 → ベイ 3 の順に取り付けてください。
- 内蔵ハードディスクユニットの SCSI ID の設定は、自動的に行われるため、不要です。

SCSI アレイコントローラカード／SCSI カードを使用して、内蔵オプションを増設する際は、「4.7.3 SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードの留意事項」(→ P.60)を参照してください。

また、内蔵オプションの接続例については、「4.8 オプション装置の接続例」(→ P.64)を参照してください。

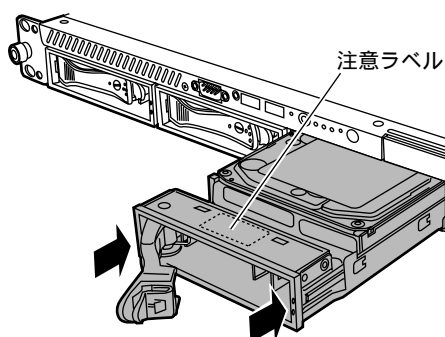
■ 内蔵ハードディスクユニットの取り付け手順

- 1** サーバ本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電します。
- 2** 内蔵ハードディスクユニットを取り付けるベイの、ブランクディスクユニットのレバーを開放します。
内蔵ハードディスクユニットが搭載されていないベイには、ブランクディスクユニットが取り付けられています。
ブランクディスクユニットのレバーとラッチをつまむように持ち、ラッチを手前に引き寄せながら、レバーを矢印方向に引きます。
- 3** ブランクディスクユニットを手前に引いて、取り外します。

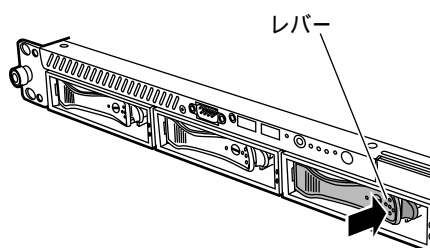


4 ハードディスクベイに内蔵ハードディスクユニットを差し込みます。

内蔵ハードディスクユニットのレバーを開いた状態で、搭載するハードディスクベイに内蔵ハードディスクユニットを差し込み、図中の矢印の位置を押して上部の注意ラベルが見えなくなるまで押し込みます。

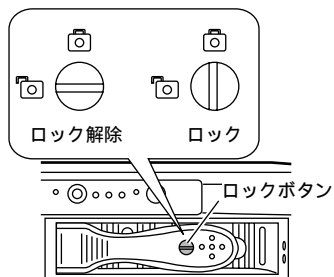


5 レバーをカチッというまで押して、内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。



POINT

- ▶ 本サーバでは、必要に応じて内蔵ハードディスクユニットを施錠（ロック）することができます。内蔵ハードディスクユニット前面のロックボタンを回して、ロックします。



■ 内蔵ハードディスクユニットの取り外し手順

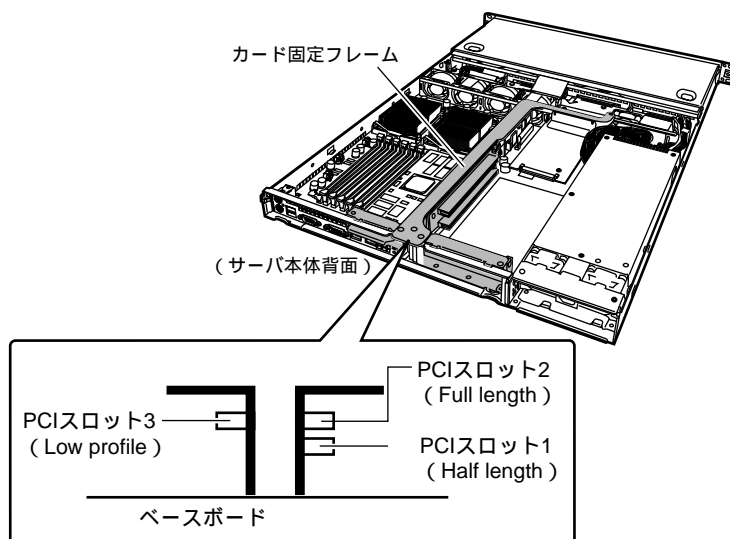
内蔵ハードディスクユニットの取り外し方は、ブランクディスクユニットの取り外し方と同じです。「■ 内蔵ハードディスクユニットの取り付け手順」(→ P.55) の手順1～3を参照し、操作を行ってください。

4.7 拡張カードの取り付け

ここでは、拡張カードの種類、取り付けの手順、および各拡張カードに関する留意事項について説明します。

4.7.1 拡張カードの種類

本サーバは、PCI スロットを 3 スロット備えており、PCI カードを最大 3 枚搭載できます。



■ 各 PCI スロットの仕様について

- PCI スロットは、すべて 64 ビット 66MHz の PCI スロットです。
- PCI スロット 1 は Half length PCI カード用、PCI スロット 2 は Full length PCI カード用、PCI スロット 3 は Low Profile PCI カード用です。
- PCI スロットは、PCI ローカルバス仕様（第 2.1 版）に準拠しています。

■ 搭載可能な拡張カード

本サーバに搭載可能な拡張カードを以下に示します。

搭載可能な搭載カード（型名）	搭載枚数		備考
SCSI アレイコントローラカード (PG-140BL)	1		内蔵アレイシステム用 (Ultra160 SCSI × 0ch、Low profile)
SCSI アレイコントローラカード (PG-142B)	1	2	外付けアレイシステム用 (Ultra160 SCSI × 2ch)
SCSI カード (PG-128)	1		外付け SCSI オプション用 (Ultra160 SCSI)
LAN カード (PG-1861) (*)	1		100BASE-TX/10BASE-T、Dual Port
LAN カード (PG-1851)	2		100BASE-TX/10BASE-T
LAN カード (PG-1871)	2		100BASE-TX/10BASE-T、IPSec
LAN カード (PG-1881)	2		1000BASE-SX
LAN カード (PG-1891)	2		1000BASE-T
ファイバーチャネルカード (PG-FC102)	2		
リモートサービスボード (PG-RSB101)	1		

*) LAN カード (PG-1861) 搭載時は、他の LAN カードを搭載することはできません。

■ 拡張カードの搭載順

各拡張カードは、次の表の数字の順にスロットを使用してください。

なお、次の表のとおりに搭載しないと、拡張カードが正常に動作しません。

搭載可能な搭載カード（型名）	PCI スロット		
	1	2	3
SCSI アレイコントローラカード (PG-140BL)	—	—	1
SCSI アレイコントローラカード (PG-142B)	—	1	—
SCSI カード (PG-128)	1	—	—
LAN カード (PG-1851)	1	2	—
LAN カード (PG-1861)	1	2	—
LAN カード (PG-1871)	1	2	—
LAN カード (PG-1881)	1	2	—
LAN カード (PG-1891)	1	2	—
ファイバーチャネルカード (PG-FC102)	1	2	—
リモートサービスボード (PG-RSB101)	1	2	—

4.7.2 拡張カードの取り付け手順

ここでは、拡張カードの取り付け手順と注意事項について説明します。

⚠ 警告



- 取り付けるときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります（「3.3 電源を切る」（→ P.29））。

⚠ 注意



- 拡張カードは静電気の影響を受けやすいので、伝導パッドなどの上に置くか、取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。



- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむき出しになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。



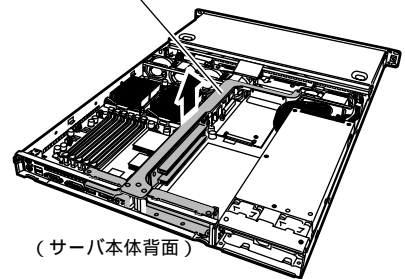
- 基板の表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。

1 電源を切り、トップカバー 1 を取り外します。
→「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」（→ P.40）

2 サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電します。

3 カード固定フレームを上方に持ち上げて、取り外します。

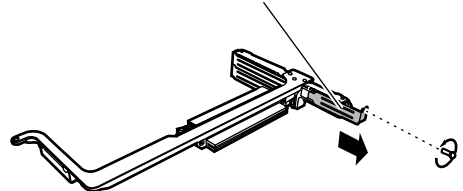
カード固定フレーム



（サーバ本体背面）

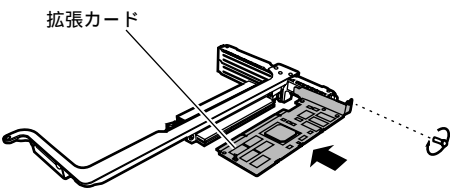
4 カード固定フレームからスロットカバーを取り外します。
ネジを外し、スロットカバーを取り外します。

スロットカバー



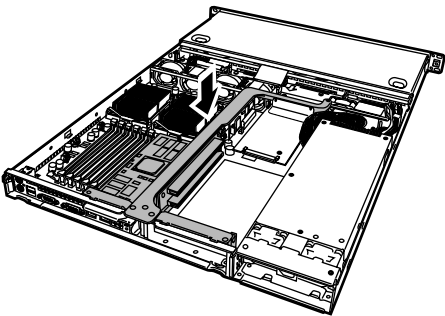
5 カード固定フレームに拡張カードを取り付けます。

拡張カードをカード固定フレームのコネクタにしっかりと取り付けます。
取り付けた拡張カードを、ネジで固定します。



6 拡張カードを取り付けたカード固定フレームをサーバ本体に取り付けます。

カード固定フレームをサーバ本体のコネクタにしっかりと取り付けます。



7 トップカバー 1 を取り付けます。

→「4.2 トップカバーの取り外し／取り付け」(→ P.40)

POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管しておいてください。
- ▶ 取り外しは、上記と逆の手順で行います。

4.7.3 SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードの留意事項

ここでは、SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードに関する留意事項について説明します。なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。

本サーバで使用できる SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードを以下に示します。

品名	型名	備考
SCSI アレイコントローラカード	PG-140BL	Ultra160 0ch 内蔵アレイシステム用
SCSI アレイコントローラカード	PG-142B	Ultra160 2ch 外付けアレイシステム用
SCSI カード	PG-128	Ultra160 SCSI 外付け SCSI オプション用

■ SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードご使用時の注意事項

- SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードには、本サーバがサポートしている SCSI 装置を接続してください。サポートしていない SCSI 装置の動作は保証しません。
- OS をインストールする前に、SCSI アレイコントローラカードのコンフィグレーションが終了しており、SCSI アレイコントローラカード配下のハードディスクの初期化が完了しているか、またはバックグラウンド初期化処理が開始されていることが必要です。
ServerStart を使用して OS のインストールを行う場合は、コンフィグレーションおよびハードディスクの初期化を ServerStart が自動で行うため不要です。
ただし、ご使用の SCSI アレイコントローラカードによっては、手動によるコンフィグレーションおよびハードディスクの初期化が必要な場合がありますので、必ず『ソフトウェアガイド 第2章 OS インストールの前に』でご確認ください。
- SCSI アレイコントローラカードの設定（Advanced Functions）については、『ソフトウェアガイド 第2章 OS インストールの前に』を参照してください。
- OS がインストールされたハードディスクユニットを接続していない SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードの BIOS 設定については、カードに添付の取扱説明書をご覧ください。

4.7.4 LAN カード／オンボード LAN の留意事項

ここでは、LAN カード／オンボード LAN に関する留意事項について説明します。なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。

本サーバで使用できる LAN カードを以下に示します。

品名	型名	備考
LAN カード	PG-1851	100BASE-TX/10BASE-T 用
LAN カード	PG-1881	1000BASE-SX 用
LAN カード	PG-1891	1000BASE-T 用
LAN カード	PG-1871	100BASE-TX/10BASE-T 用、IPSec
LAN カード	PG-1861	100BASE-TX/10BASE-T 用、IPSec、Dual Port

4.7.5 ファイバーチャネルカード

本サーバで使用できるファイバーチャネルカードを以下に示します。

なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項を参照してください。

品名	型名	備考
ファイバーチャネルカード	PG-FC102	

4.7.6 リモートサービスボード

ここでは、リモートサービスボードに関する留意事項について説明します。なお、拡張カード固有の留意事項については、拡張カードに添付の取扱説明書、およびサーバ本体に添付されている注意事項をよくお読みください。

本サーバで使用できるリモートサービスボードを以下に示します。

⚠ 注意

- リモートサービスボードの AC アダプタは、リモートサービスボードを本サーバに搭載し、本サーバのトップカバーを閉じるまで絶対に接続しないでください。故障や火災、感電の原因となります。
- リモートサービスボードの交換、またはその他のオプション装置の増設などを行う場合は、作業を開始する前に、必ずリモートサービスボードの AC アダプタの電源ケーブルをコンセントから抜いてください。故障や火災、感電の原因となります。

本サーバで使用できるリモートサービスボードを以下に示します。

品名	型名	備考
リモートサービスボード	PG-RSB101	ボード
リモートサービスボード搭載キット H	PG-RSBOP8	本サーバ搭載用キット (ケーブルを含む)

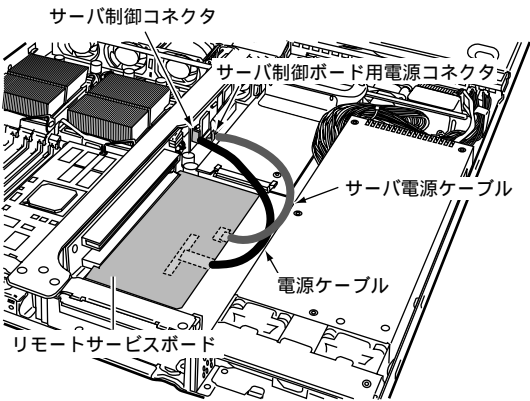
リモートサービスボードの取り付け時の注意事項を次に示します。

■ リモートサービスボード搭載前に

リモートサービスボード搭載時の準備、および取り付け作業については、リモートサービスボード、およびリモートサービスボード搭載キット H に添付の取扱説明書を併せてお読みください。

■ リモートサービスボード制御ケーブルの取り付け位置

リモートサービスボード搭載キット H に添付されているサーバ制御ケーブルおよび電源ケーブルを、以下の図に示すサーバ制御コネクタとサーバ制御ボード用電源コネクタに接続します。



■ リモートサービスボード搭載時の留意事項

- リモートサービスボードカードを本サーバに搭載する場合は、リモートサービスボード搭載キット H が必要です。
- リモートサービスボードを使用するためには、ファームウェアのアップデートが必要です。ファームウェアのアップデート方法については、リモートサービスボード搭載キット H に添付の取扱説明書を参照してください。
- リモートサービスボードを使用するには、必ず **ServerView** をインストールしてください。
- リモートサービスボードを使用してコンソールリダイレクションを行うことはできません。

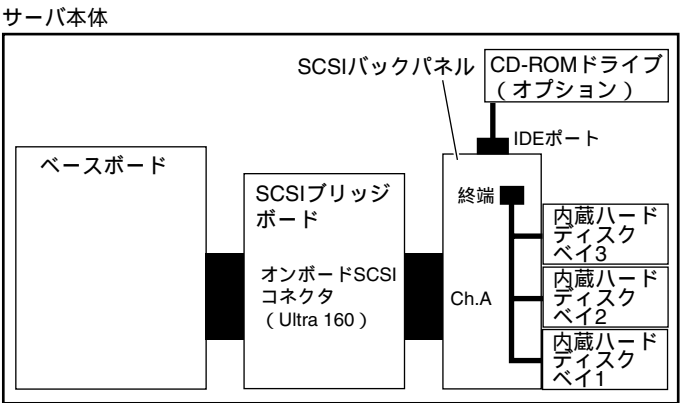
4.8 オプション装置の接続例

4.8.1 内蔵オプションの接続例

内蔵オプションの接続例を以下に示します。個々に接続条件がありますので、各項目を参照してください。

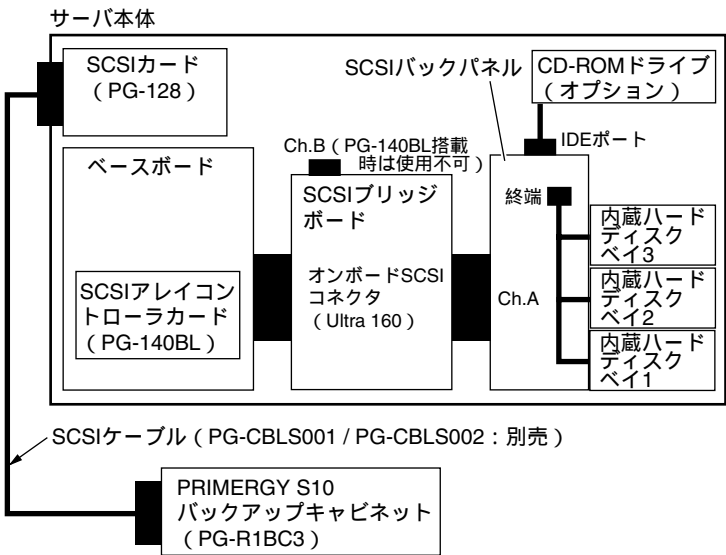
■ 内蔵ハードディスクをオンボード SCSI 構成にする形態

以下に、内蔵ハードディスクの接続形態を示します。



■ 内蔵ハードディスクユニットをアレイシステム構成にする形態

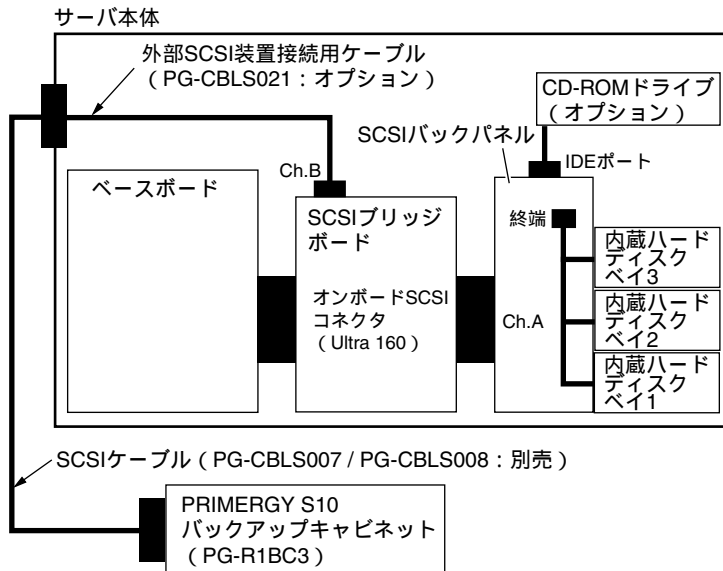
SCSI カードを使用して、内蔵ハードディスクユニットでアレイシステムを構成します。以下に、システム構成とケーブル接続形態を示します。



- SCSI アレイコントローラカード (PG-140BL) には、内蔵ハードディスクドライブのみ接続することができます。
- SCSI カード (PG-128) には、内蔵ハードディスクユニットは接続できません。

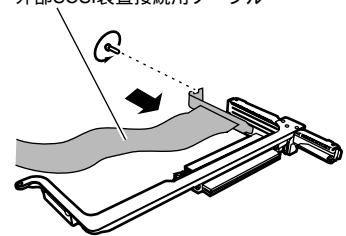
■ 外部 SCSI 装置接続用ケーブルを使用してバックアップキャビネットを接続する形態

外部 SCSI 装置接続用ケーブルを使用して、バックアップキャビネットを接続します。
以下に、システム構成とケーブル接続形態を示します。



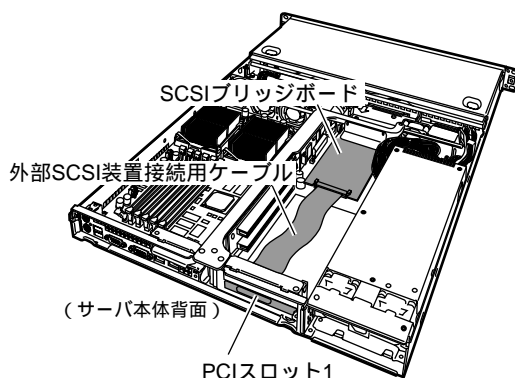
● 外部 SCSI 装置接続用ケーブルの取り付け方法

- 1 PCI スロット 1 のスロットカバーを取り外します。
→ 「4.7.2 拡張カードの取り付け手順」 (→ P.59) の手順 1 ～ 4
- 2 カード固定フレームに外部 SCSI 装置接続用ケーブルを取り付けます。
取り付けた外部 SCSI 装置接続用ケーブルを PCI スロット 1 の位置に差し込み、ネジで固定します。



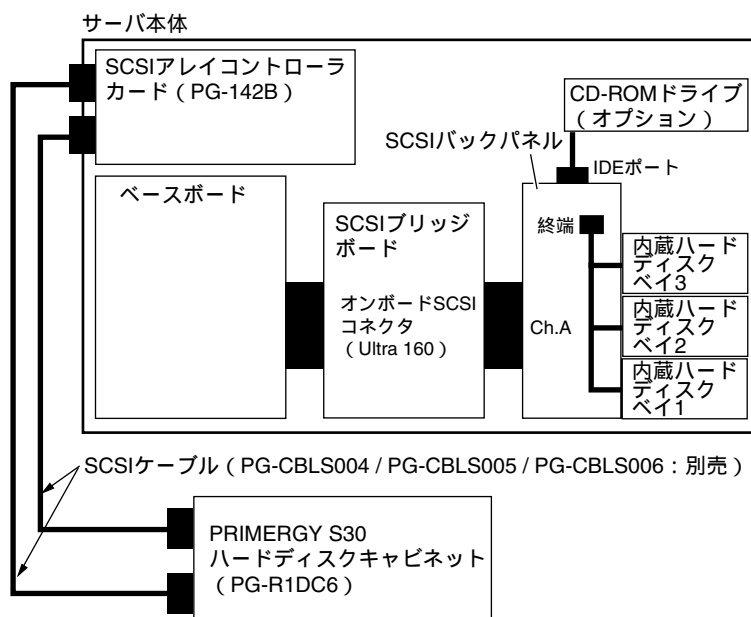
- 3 カード固定フレームをサーバ本体に取り付けます。
→ 「4.7.2 拡張カードの取り付け手順」 の手順 6 (→ P.60)

- 4** 外部 SCSI 装置接続用ケーブルのコネクタを SCSI ブリッジボードに接続します。



■ ハードディスクキャビネットを追加し、大容量アレイシステムを構築する形態

SCSI アレイコントローラカードを使用して、大容量アレイシステムを構築します。
以下に、システム構成とケーブル接続形態を示します。



- SCSI アレイコントローラカード (PG-142B) には、ハードディスクキャビネット (PG-R1DC6) のみ接続することができます。

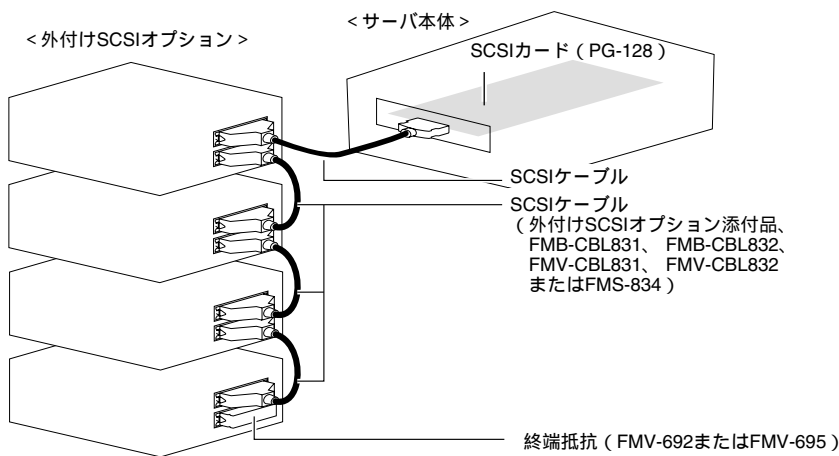
4.8.2 SCSI 外部オプションを接続する形態

外部 SCSI オプションは、SCSI ID を重複しないように設定し、以下の図のように数珠つなぎに接続します。

外部 SCSI オプションは、最大 4 台まで接続することができます。

■ 外付け SCSI オプションを接続する形態

外付け SCSI オプションは、SCSI ID を重複しないように設定し、以下の図のようにディジーチェーン接続（数珠つなぎ接続）にします。



■ 外付け SCSI オプションの注意事項

- SCSI ID の設定
各機器の設定が重複しないよう注意してください。
- 終端抵抗
外付け SCSI オプション接続時は、最終端に終端抵抗を取り付けてください。この終端抵抗は SCSI オプションのコネクタにより異なりますので、ご注意ください。

SCSI オプションのコネクタ	終端抵抗
フルピッチ 50pin コネクタ	FMV-692 (別途必要)
ハーフピッチ 50pin コネクタ	FMV-695 (別途必要)
ハーフピッチ 68pin コネクタ	SCSI オプションに添付

注) SCSI オプションに添付されてきた終端抵抗は、必ず当該の装置でのみ使用してください。

- SCSI ケーブル

SCSI オプションを接続するための SCSI ケーブルは、使用用途に応じたものを選択してください。

コネクタの種類	長さ	型名	備考
ハーフピッチ 68 ピン⇔フルピッチ 50 ピン	1m	GP5-832	
ハーフピッチ 68 ピン⇔ハーフピッチ 50 ピン	1m	GP5-833	
ハーフピッチ 68 ピン⇔ハーフピッチ 68 ピン	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフピッチ 68 ピンの SCSI オプションに添付されます。 ・長さは、SCSI オプションによって異なります。
フルピッチ 50 ピン⇔フルピッチ 50 ピン	1m	FMB-CBL831	用途例： DAT オートチェンジャ（DDS3）のデ イジーチェーン接続
ハーフピッチ 50 ピン⇔ハーフピッチ 50 ピン	2m	FMB-CBL832	
フルピッチ 50 ピン⇔ハーフピッチ 50 ピン	1m	FMS-834	用途例： 光磁気ディスクと DAT オートチェンジャ （DDS3）のデイジーチェーン接続
	2m	FMV-CBL831	
	1m	FMV-CBL832	

- デイジーチェーン接続について

各装置の SCSI インタフェース形式が異なる場合には、デイジーチェーン接続（数珠つなぎ接続）はできません。SCSI カードを別途用意して接続してください。

また、DLT ライブラリ装置はデイジーチェーン接続できません。

第 5 章

ハードウェアの設定について

この章は、本サーバを動かす上で必要となる環境設定の方法を解説しています。

章目次

5.1 セットアップの概要	70
5.2 ハードウェアの設定	71
5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	72
5.4 SCSI Select ユーティリティを使う	92
5.5 BIOS 設定情報の退避／復元	103

5.1 セットアップの概要

本サーバを正常に機能させるためには、以下に示す作業を正しく行う必要があります。

■ ハードウェアの設定

サーバ本体や本体に装着するオプション装置、拡張カードのスイッチやジャンパピンなどの物理的な設定を実施し、確認します。このセットアップに誤りがあると、サーバが動作しないか、正しく機能しません。本章では、サーバ本体内にあるスイッチブロックの設定について説明します。サーバ本体に内蔵するハードディスクドライブ、ドライブユニットおよび拡張カードの設定については、「第4章 内蔵オプションの取り付け」(→ P.37)、および各オプション装置に添付の取扱説明書をご覧ください。

→ 「5.2 ハードウェアの設定」(→ P.71)

■ BIOS セットアップユーティリティ

BIOS (Basic Input Output System) は、キーボードやディスプレイなどの入出力装置を制御する基本的なソフトウェアです。BIOS セットアップユーティリティは、ハードウェアの設定を行う場合に使用します。本ユーティリティで設定したオプションパラメータは、サーバ本体内のCMOS RAM (以下、CMOS) およびNVRAM に書き込まれます。

→ 「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(→ P.72)

■ SCSI Select ユーティリティ

本サーバのオンボード SCSI に関する各種設定ができます。SCSI Select ユーティリティを使い、それぞれの SCSI バスに対して設定します。

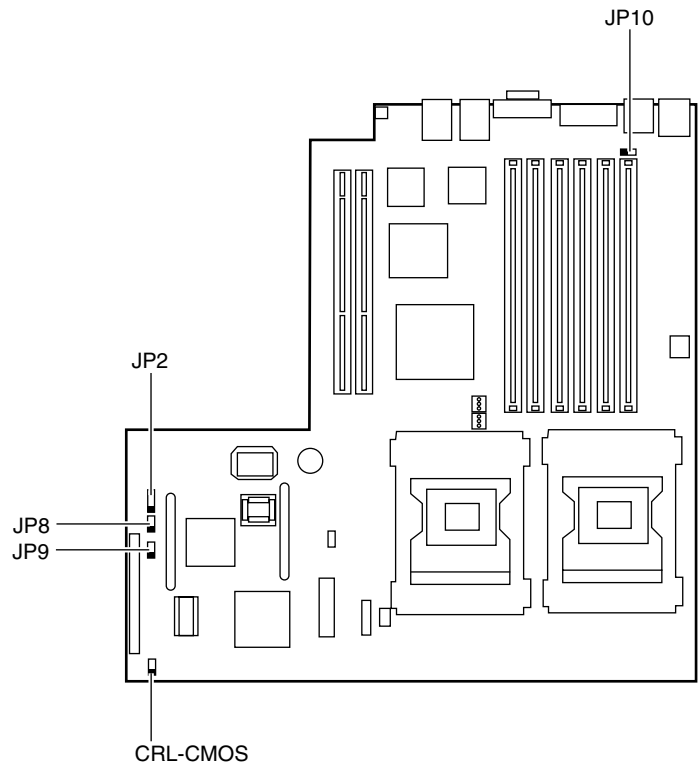
→ 「5.4 SCSI Select ユーティリティを使う」(→ P.92)

5.2 ハードウェアの設定

ジャンパの設定は以下のとおりです。

■ ジャンパ

ベースボード上のジャンパの設定について説明します。



以下に、各ジャンパの意味を示します。

ジャンパ	設定	内容	ご購入時設定
CRL-CMOS	1-2	Clear CMOS	—
	2-3	Normal	○
JP8	1-2	Onboard VGA Function Enabled	○
	2-3	Onboard VGA Function Disabled	—
JP2	1-2	BIOS Top Block Write Disable	○
	2-3	BIOS 2-8 Block Write Disable	—
JP9	1-2	Normal	○
	2-3	Enable USB Wake Up Function	—
JP10	1-2	Normal	○
	2-3	Enable USB Wake Up Function	—

5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う

BIOS セットアップユーティリティの概要や始め方について説明します。

5.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき

BIOS セットアップユーティリティとは、メモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。

BIOS セットアップユーティリティによる設定は、以下の場合に行います。

- 本サーバを起動するドライブを変更する場合
→ 「5.3.7 Boot メニュー」 (→ P.87)
- シリアルポートなどの働きを設定する場合
→ 「5.3.5 Advanced メニュー」 — 「Peripheral Configuration」 (→ P.79)
- パスワードの設定をする場合
→ 「2.1.2 ソフトウェアのセキュリティ」 (→ P.21)

また、POST 中にエラーメッセージが表示されたときの対処として、BIOS セットアップユーティリティの設定内容を確認する必要があります。

→ 「第 6 章 保守について」 — 「6.5 エラーメッセージ」 (→ P.120)

重要

- ▶ BIOSセットアップユーティリティで設定した内容は、サーバ本体内部のCMOSおよびNVRAMに記録されます。このCMOSは、内蔵バッテリーによって情報を保持しています。セットアップを正しく行っても、POSTでセットアップに関するメッセージが表示される場合は、CMOSに設定内容が保存されていないおそれがあります。原因としてバッテリーが消耗していることが考えられますので、担当保守員に連絡してください。
- ▶ 「変更禁止」と書かれた項目は変更しないでください。
装置が正しく動作しないことがあります。

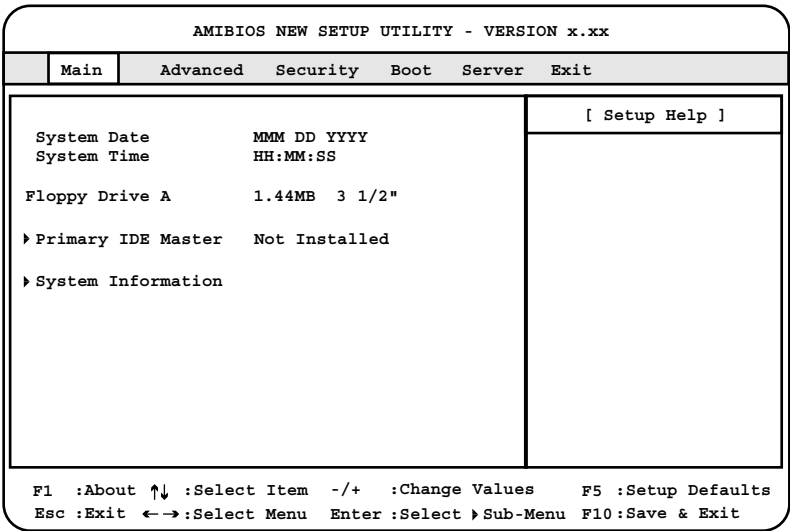
5.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了

BIOS セットアップユーティリティの起動方法と終了の方法は、以下のとおりです。

■ BIOS セットアップユーティリティの起動方法

BIOS セットアップユーティリティの起動方法は以下のとおりです。

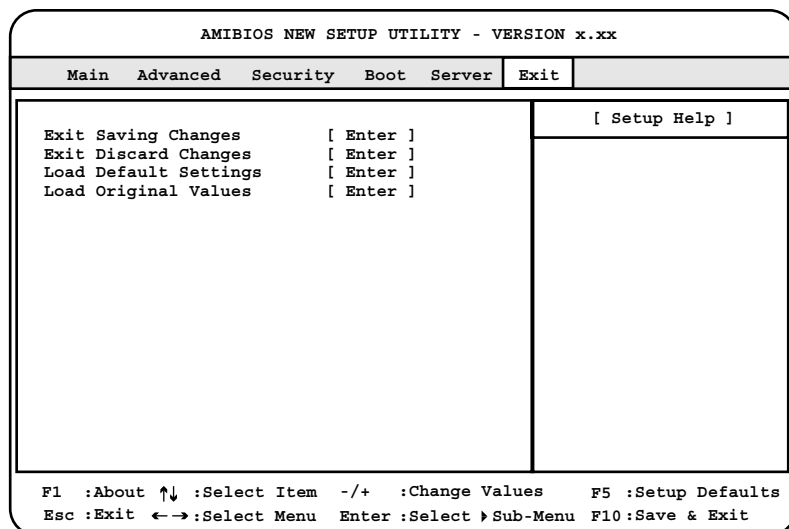
- 1 サーバ本体の電源を入れます。
POST のメモリカウント終了後、画面に「DEL:Setup F8:Boot Menu F12:Network boot
ESC:Skip memory test」と表示されたら、メッセージが表示されている間に、【Delete】
キーを押します。
メインメニュー画面が表示されます。



■ BIOS セットアップユーティリティの終了方法

BIOS セットアップユーティリティの終了方法は、以下のとおりです。

1 【←】【→】キーを押して、Exit メニュー画面を表示させます。



2 【↑】【↓】キーを押して、終了方法を選択します。

- ・設定を保存して終了する場合
「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
- ・設定を保存しないで終了する場合
「Exit Discarding Changes」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
終了確認のウィンドウが表示されます。

3 【Enter】キーまたは【Esc】キーを押します。

- ・Exit メニューで「Exit Saving Changes」を選択した場合
 - ・終了する場合は、【Enter】キーを押します。
設定が保存されたあと BIOS セットアップユーティリティが終了し、本サーバが再起動します。
 - ・終了しない場合は、【Esc】キーを押します。
BIOS セットアップユーティリティ画面に戻ります。
- ・Exit メニューで「Exit Discarding Changes」を選択した場合
 - ・終了する場合は、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップユーティリティが終了し、本サーバが再起動します。
 - ・終了しない場合は、【Esc】キーを押します。
BIOS セットアップユーティリティ画面に戻ります。

5.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作

BIOS セットアップユーティリティの設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

キー	説明
【F1】	Info を表示します。
【Esc】	サブメニューを終了し、前のメニューに戻ります。 または、本ユーティリティを終了します。
【-】 【+】	項目の値を変更します。
【Enter】	設定項目を選択します。▶ が表示されている項目では、サブメニューを表示します。
【↑】 【↓】	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】 【→】	メニューを切り替えます。
【F5】	各項目の設定値を初期値にします。
【F10】	設定を保存し、本ユーティリティを終了します。

5.3.4 Main メニュー

BIOS セットアップユーティリティを起動すると、最初に Main メニューが表示されます。Main メニューでは、日時やドライブの設定などを行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

MainAdvancedSecurityBootServerExit

System DateMMM DD YYYY

System TimeHH:MM:SS

Floppy Drive A1.44MB 3 1/2"

▶ Primary IDE MasterNot Installed

▶ System Information

[Setup Help]

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults
Esc :Exit ←→ :Select Menu Enter :Select ▶Sub-Menu F10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
System Date	現在の日付	システム日付を「月 日 西暦」で設定します。 たとえば 2002 年 8 月 20 日は、「Aug」「20」「2002」と入力します。
System Time	現在の時刻	システム時刻を「時：分：秒」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。 たとえば午後 6 時 30 分 00 秒は、「18」、「30」、「00」と入力します。 補足： ▶ 精度の高いシステム時間を要求される場合は、ネットワーク経由の時刻合わせの仕組み（NTP など）をシステム設計に取り入れてください。
Floppy Drive A	<input type="checkbox"/> Not Installed <input type="checkbox"/> 1.2MB 5 1/4" <input type="checkbox"/> 720KB 3 1/2" <input checked="" type="checkbox"/> 1.4MB 3 1/2" <input type="checkbox"/> 2.88MB 3 1/2"	フロッピーディスクドライブ A のタイプ（記録密度とドライブサイズ）を設定します。
Primary IDE Master	【Press Enter】	接続した IDE デバイスのタイプと動作モードを設定します（「■ Primary IDE Master サブメニュー」（→ P.76））。
System Information	【Press Enter】	本サーバの製品情報や、ベースボードなどの情報を表示します（「■ System Information サブメニュー」（→ P.78））。

■ Primary IDE Master サブメニュー

接続した IDE デバイスのタイプと動作モードを設定します。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

Main

Primary IDE Master:SR244W

[Setup Help]

Type
Auto

Cylinders

Heads

Write precompensation

Sectors

Maximum Capacity 0 Mb

LBA Mode: On

Block Mode Off

Fast Programmed I/O Modes 4

32Bit Transfer Mode On

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults

Esc :Previous Menu
Enter :Select ▶ Sub-Menu F10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Type	<input type="checkbox"/> Not Installed <input type="checkbox"/> 01 ～ <input type="checkbox"/> 46 <input type="checkbox"/> User <input checked="" type="checkbox"/> Auto <input type="checkbox"/> CD/DVD <input type="checkbox"/> ARMD	IDE デバイスのタイプを設定します。
Cylinders	<input type="checkbox"/> 1 ～ <input type="checkbox"/> 65535	本サーバが検出した、ハードディスクのシリンダ数を表示します。 Type を「User」、「01」～「46」、「ARMD」に設定したときに表示される項目です。
Heads	<input type="checkbox"/> 1 ～ <input type="checkbox"/> 255	本サーバが検出した、ハードディスクのヘッド数を表示します。 Type を「User」、「01」～「46」、「ARMD」に設定したときに表示される項目です。
Write Precompensation	<input type="checkbox"/> 0 ～ <input type="checkbox"/> 65535	指定されたシリンダナンバーから最内周について書き込み補償を行います。任意のシリンダナンバーを設定します。
Sectors	<input type="checkbox"/> 0 ～ <input type="checkbox"/> 255	本サーバが検出した、ハードディスクのセクタ数を表示します。
LBA Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Off (オプションの CD-ROM ドライブユニット未搭載時の設定) <input checked="" type="checkbox"/> On (オプションの CD-ROM ドライブユニット搭載時の設定)	LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) を有効にするかどうかを設定します。 Type を「User」、「01」～「46」に設定したときに表示される項目です。
Block Mode	<input checked="" type="checkbox"/> Off <input type="checkbox"/> On	ブロック転送 (データを複数セクタ分まとめて転送すること) を行うかどうかを設定します。 Type を「User」、「01」～「46」に設定したときに表示される項目です。
Fast Programmed I/O Modes	<input type="checkbox"/> Auto <input checked="" type="checkbox"/> 0 (オプションの CD-ROM ドライブユニット未搭載時の設定) <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4 (オプションの CD-ROM ドライブユニット搭載時の設定)	PIO (Programmed I/O) モードを設定します。 Type を「Not Installed」、「Auto」以外に設定したときに表示される項目です。
32Bit Transfer Mode	<input type="checkbox"/> Off <input checked="" type="checkbox"/> On	プロセッサと IDE コントローラとの間のデータ転送バス幅を指定します。

■ System Information サブメニュー

本サーバの製品情報や、ベースボードなどの情報を表示します。

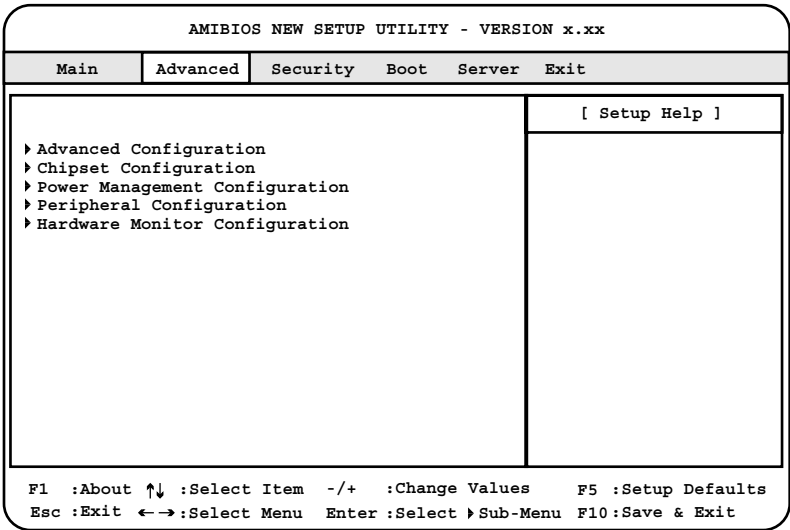
AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx		
Main		
System Information		[Setup Help]
CPU Type	Intel(R) Xeon(TM) x2	
CPU Speed	1800MHz	
Cache Size	512KB	
Memory Size	512MB	
Bios Version	xx	
BIOS Release Date	MM/DD/YYYY	
System Product Name	PRIMERGY L250	
System UUID	xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx	
Main Board ID	81PPDR	
BMC Firmware Version	<.xx	

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults
Esc :Previous Menu Enter :Select ▸Sub-Menu F10:Save & Exit

項目	内容
CPU Type	CPU の名称と搭載数を表示します。
CPU Speed	CPU の動作周波数を表示します。
Cache Size	2 次キャッシュ容量を表示します。
Memory Size	メモリ容量を表示します。
Bios Version	BIOS の版数を表示します。
BIOS Release Date	BIOS のリリース日（ビルド日）を表示します。
System Product Name	製品名を表示します。
System UUID	システムの UUID（Universal Unique Identifier）を表示します。
Main Board ID	ベースボードの ID を表示します。
BMC Firmware Version	BMC ファームウェアの版数を表示します。

5.3.5 Advanced メニュー

Advanced メニューでは、周辺装置や電源に関する設定を行います。



各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Advanced Configuration	【Press Enter】	追加設定を行います（「■ Advanced Configuration サブメニュー」(→ P.80)）。
Chipset Configuration	【Press Enter】	チップセットの設定を行います（「■ Chipset Configuration サブメニュー」(→ P.81)）。
Power Management Configuration	【Press Enter】	電源の設定を行います（「■ Power Management Configuration サブメニュー」(→ P.82)）。
Peripheral Configuration	【Press Enter】	シリアル、パラレルポートなどの設定を行います（「■ Peripheral Configuration サブメニュー」(→ P.83)）。
Hardware Monitor Configuration	【Press Enter】	サーバの管理に関する設定を行います（「■ Hardware Monitor Configuration サブメニュー」(→ P.84)）。

■ Advanced Configuration サブメニュー

追加設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx	
Advanced	
Advanced Configuration	[Setup Help]
Quick Boot Disabled	
MPS Version for OS 1.4	
Console Redirect Disabled	
C.R. Port Baud Rate 9600	
C.R. after Post Enabled	
Halt On All Errors	

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults
Esc :Previous Menu Enter :Select ▶ Sub-Menu F10 :Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止

項目	設定値	内容
Quick Boot	■ Disabled □ Enabled	クイックブートを行うかどうかを設定します。
MPS Version for OS	□ 1.1 ■ 1.4	使用するマルチプロセッサテーブルのバージョンを設定します。
Console Redirect	◎ Disabled □ COM A □ COM B	コンソールリダイレクションに使用するシリアルポートを設定します。
C.R. Port Baud Rate	◎ 9600 □ 19200 □ 57600 □ 115200	コンソールリダイレクションを使用している場合、使用するボーレートを設定します。 Console Redirect を「COM A」、「COM B」に設定したときに表示される項目です。
C.R. after Post	□ Disabled ◎ Enabled	POST（Power On Self Test）後に、コンソールリダイレクションを行うかどうかを設定します。 Console Redirect を「COM A」、「COM B」に設定したときに表示される項目です。
Halt On	◎ All Errors □ No Errors □ All,But Keyboard □ All,But Diskette □ All,But Disk/Key	POST 動作中にエラーを検出した場合のシステムの動作を設定します。 「All Errors」：すべてのエラーでエラーメッセージを表示して停止します。 「No Errors」：エラー検出を行いません。 「All,But Keyboard」：キーボード以外のエラー検出を行います。 「All,But Diskette」：フロッピーディスクエラー以外のエラー検出を行います。 「All,But Disk/Key」：キーボード／フロッピーディスクエラー以外のエラー検出を行います。

■ Chipset Configuration サブメニュー

チップセットの設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

Advanced

Chipset Configuration

[Setup Help]

ClkGen Spread Spectrum Enabled

HyperThreading Disabled

CPU Ratio Auto

CPU Frequency Ratio 18.0x

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults

Esc :Previous Menu Enter :Select ▶Sub-Menu F10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
ClkGen Spread Spectrum	<div><input type="checkbox"/> Disabled</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> Enabled</div>	クロックジェネレータのスプレッドスペクトル機能を設定します。
HyperThreading	<div><input checked="" type="radio"/> Disabled</div> <div><input type="radio"/> Enabled</div>	<div>1 つの CPU を論理的に 2 つの CPU として運用するかどうかを設定します。この設定を有効にすると、プロセッサの内部資源を有効に使用することにより、パフォーマンスが向上する場合があります。</div> <div>補足：<div><div>▶ ご使用になる OS およびアプリケーションによっては、Hyper Threading 機能に対応していないものがあります。</div><div>HyperThreading を「Enabled」に設定して使用する場合は、OS ベンダ、アプリケーションベンダに、Hyper Threading 機能への対応を確認した上で使用してください。</div><div>▶ 1CPU で運用している場合で、HyperThreading 項目を「Disabled」から「Enabled」に変更する場合には、OS をマルチプロセッサカーネルに変更する必要があります。Windows 2000 Server の場合は、OS を変更することで、マルチプロセッサカーネルに変更できます。OS の変更方法については、『ソフトウェアガイド 第7章 ハードウェア増設時の操作』を参照してください。</div></div></div>
CPU Ratio	<div><input checked="" type="checkbox"/> Auto</div> <div><input type="checkbox"/> Manual</div>	CPU の動作周波数を手動で設定するかどうかを設定します。
CPU Frequency Ratio	—	CPU の動作周波数を手動で設定します。 CPU Ratio を「Manual」に設定したときに、設定することができます。

■ Power Management Configuration サブメニュー

電源の設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx		
Advanced		
Power Management Configuration		[Setup Help]
Soft-Off by Power Button	Instant Off	
System After AC Back	Last State	
Modem Ring On/Wake On Lan	Enabled	
PME Event Wake Up	Enabled	
Resume by RTC Alarm	Disabled	
RTC Alarm Date	Every Day	
RTC Alarm Hour	00	
RTC Alarm Minute	00	
RTC Alarm Second	00	

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults
Esc :Previous Menu Enter :Select ▶ Sub-Menu F10 :Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Soft-Off by Power Button	■ Instant off □ Suspend	電源が入っているとき、電源ボタンを 4 秒以下の時間押し続けた場合の電源の動作を設定します。 「Instant off」：電源が切れます。 「Suspend」：サスペンドモードに移行します。
System After AC Back	□ Off State □ On State ◎ Last State	電源供給復電時の設定を行います。 Windows 2000 などシャットダウン後に電源が切断される OS にて UPS のスケジュール運転を行う場合は、本設定を「On State」に設定してください。 「Off State」：電源復電時、常にシステムを起動しません。 「On State」：電源復電時、常にシステムを起動します。 「Last State」：電源復電時、電源切断前の状態に戻します。電源が入っていた場合は、復電時、システムを起動します。電源が入っていなかった場合は、復電時、システムを起動しません。
Modem Ring On/Wake On Lan	□ Disabled ◎ Enabled	Wake On Ring または Wakeup On Lan で電源を入れるかどうかを設定します。
PME Event Wake Up	□ Disabled ◎ Enabled	PME (Power Management Enable) 信号から電源を入れるかどうかを設定します。
Resume by RTC Alarm	■ Disabled □ Enabled	省電力状態から RTC (Real Time Clock) のアラームで復電するかどうかを設定します。
RTC Alarm Date	■ Every Day □ 01 ~ □ 31	RTC アラームの日付を設定します。 Resume by RTC Alarm が「Enabled」に設定されているときに設定することができます。

項目	設定値	内容
RTC Alarm Hour	■ 00 ～ □ 23	RTC アラームの時刻（時）を設定します。 Resume by RTC Alarm が「Enabled」に設定されているときに設定することができます。
RTC Alarm Minute	■ 00 ～ □ 59	RTC アラームの時刻（分）を設定します。 Resume by RTC Alarm が「Enabled」に設定されているときに設定することができます。
RTC Alarm Second	■ 00 ～ □ 59	RTC アラームの時刻（秒）を設定します。 Resume by RTC Alarm が「Enabled」に設定されているときに設定することができます。

■ Peripheral Configuration サブメニュー

ベースボード上の周辺機器の設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

Advanced

Peripheral Configuration

OnBoard IDE

Enabled

OnBoard FDC

Enabled

OnBoard Serial PortA

3F8/COM1

OnBoard Serial PortB

2F8/COM2

USB Function

Enabled

USB Legacy Support

Disabled

OnBoard Gigabit LANs

Enabled

OnBoard SCSI

Enabled

[Setup Help]

F1 :About

↑↓ :Select Item

-/+ :Change Values

F5 :Setup Defaults

Esc :Previous Menu

Enter :Select ▶Sub-Menu

F10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
OnBoard IDE	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled	IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。
OnBoard FDC	<input type="checkbox"/> Disabled ■ Enabled	FDC コントローラを有効にするかどうかを設定します。
OnBoard Serial PortA	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ 3F8/COM1 <input type="checkbox"/> 2F8/COM2 <input type="checkbox"/> 3F8/COM3 <input type="checkbox"/> 2F8/COM4	シリアルポート A の I/O ポートアドレスを設定します。
OnBoard Serial PortB	<input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> 3F8/COM1 ◎ 2F8/COM2 <input type="checkbox"/> 3F8/COM3 <input type="checkbox"/> 2F8/COM4	シリアルポート B の I/O ポートアドレスを設定します。

項目	設定値	内容
USB Function	<input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> Enabled	USB コントローラを使用するかどうかを設定します。
USB Legacy Support	<input checked="" type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled	USB 対応キーボード／マウスを MS-DOS 環境のもとで有効にするかどうかを設定します。なお、USB Function が「Disabled」のときは選択できません。
OnBoard Gigabit LANs	<input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> Enabled	LANコントローラを有効にするかどうかを設定します。
OnBoard SCSI	<input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> Enabled	SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。

■ Hardware Monitor Configuration サブメニュー

サーバの管理に関する設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

Advanced

Hardware Monitor Configuration

Reset Case Open Status	No
Case Status	Closed
CPU0 Current Temperature	N/A
CPU1 Current Temperature	N/A
Vcore	x.xxx V
Vcc 2.5	x.xxx V
Vtt 1.5	x.xxx V
Vcc 3	x.xxx V
Vcc 5	x.xxx V
VRTC	x.xxx V
5VSB	x.xxx V
+12V	x.xxx V
Fans Duty Cycle	100%
CPU0 Fan1	xxxx RPM
CPU0 Fan2	xxxx RPM
CPU0 Fan3	xxxx RPM
CPU0 Fan4	xxxx RPM

[Setup Help]

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults

Esc :Previous Menu Enter :Select ▶Sub-Menu F10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Reset Case Open Status	◎ No □ Yes	シャーシの開閉状態を更新します。
Case Status	—	シャーシの開閉状態を表示します。
CPU0 Current Temperature	—	CPU 0 の現在の温度を表示します。
CPU1 Current Temperature	—	CPU 1 の現在の温度を表示します。
Vcore	—	現在の Vcore の電圧を表示します。
Vcc 2.5	—	現在の VCC 2.5V ラインの電圧を表示します。
Vcc 1.25	—	現在の VCC 1.25V の電圧を表示します。
Vcc 3	—	現在の VCC 3V ラインの電圧を表示します。

項目	設定値	内容
Vcc 5	—	現在の VCC 5V ラインの電圧を表示します。
VRTC	—	現在の VRTC の電圧を表示します。
5VSB	—	現在の 5VSB ラインの電圧を表示します。
+12V	—	現在の +12V ラインの電圧を表示します。
Fan Duty Cycle	<input type="checkbox"/> 50% <input type="checkbox"/> 60% <input type="checkbox"/> 70% <input type="checkbox"/> 80% <input type="checkbox"/> 90% <input checked="" type="checkbox"/> 100%	ファンの負荷サイクルを設定します。
CPU0 Fan1	—	CPU 0 のファン 1 の回転数を表示します。
CPU0 Fan2	—	CPU 0 のファン 2 の回転数を表示します。
CPU0 Fan3	—	CPU 0 のファン 3 の回転数を表示します。
CPU0 Fan4	—	CPU 0 のファン 4 の回転数を表示します。
CPU1 Fan1	—	CPU 1 のファン 1 の回転数を表示します。
CPU1 Fan2	—	CPU 1 のファン 2 の回転数を表示します。
CPU1 Fan3	—	CPU 1 のファン 3 の回転数を表示します。
CPU1 Fan4	—	CPU 1 のファン 4 の回転数を表示します。
System Fan1	—	システムファン 1 の回転数を表示します。
System Fan2	—	システムファン 2 の回転数を表示します (未使用)。
Power Fan1	—	電源ファン 1 の回転数を表示します (未使用)。
Power Fan2	—	電源ファン 2 の回転数を表示します。
Power Fan3	—	電源ファン 3 の回転数を表示します。

5.3.6 Security メニュー

Security メニューでは、セキュリティに関する設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx					
Main	Advanced	Security	Boot	Server	Exit
Set Supervisor Password [Enter] Set User Password [Enter] Password Check Setup			[Setup Help]		
F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults Esc :Exit ←→ :Select Menu Enter :Select ▶ Sub-Menu F10:Save & Exit					

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Set Supervisor Password	管理者用パスワードを設定	システムパスワードを設定します。システムパスワードによって、システムに対する無許可アクセスを防止できます。 セッアップパスワードが設定されている必要があります。 このフィールドを選択して、【Enter】キーを押します。次に、システムパスワードを入力します。 パスワードの設定／変更／削除については、「■パスワードの設定方法」(→ P.21) および「■パスワードの削除／変更方法」(→ P.22) を参照してください。
Set User Password	ユーザ用パスワードを設定	セッアップパスワードを設定します。セッアップパスワードによって、BIOS Setup の無許可での開始を防止します。 このフィールドを選択して、【Enter】キーを押します。次に、セッアップパスワードを入力します。 パスワードの設定／変更／削除については、「■パスワードの設定方法」(→ P.21) および「■パスワードの削除／変更方法」(→ P.22) を参照してください。
Password Check	◎ Setup □ Always	パスワードをいつ要求するかを設定します。

5.3.7 Boot メニュー

Security メニューでは、セキュリティに関する設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

MainAdvancedSecurityBootServerExit

Boot Device Priority

1stCD/DVD:SR244W

2ndFloppy:1.4MB 3 1/2

3rdBBS-2 (SCSI) :00,AIC-7899 01

Try Other Boot Devices No

[Setup Help]

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change ValuesF5 :Setup Defaults
Esc :Exit ←→ :Select MenuEnter :Select ▶Sub-MenuF10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Boot Device Priority		
1st	<div><div><input type="checkbox"/> Disabled</div><div><input checked="" type="radio"/> Floppy:1.4MB 3 1/2 (オプションの CD-ROM ドライブユニット未搭載時のご購入時設定値)</div><div><input checked="" type="radio"/> CD/DVD:SR244W (オプションの CD-ROM ドライブユニット搭載時のご購入時設定値)</div><div><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00</div><div><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 01</div><div><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02</div><div><input type="checkbox"/> BBS-n (RAID) :I20 OSM</div><div><input type="checkbox"/> BBS-n (Network) :IBA 1.1.07 Slot 0418</div><div><input type="checkbox"/> BBS-n (Network) :IBA 1.1.07 Slot 0410</div></div>	<div>ブートするデバイスの順序を、1 ～ 3 番目まで指定します。</div> <div>「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00」～「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02」の「n」には、0 ～ 4 の任意の数字が表示されます。</div> <div>補足：<div>▶ システム構成によって、「n」に表示される番号は異なります。 (ディスクレス構成の場合) BBS-n (Network) (オンボード SCSI 構成の場合) BBS-n (SCSI) → BBS-n (Network) の順 (SCSI アレイコントローラカード PG-140BL 使用の場合) BBS-n (RAID) → BBS-n (Network) の順</div></div> <div>「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00」～「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02」は、オンボード SCSI に内蔵ハードディスクが接続されている場合に 표시됩니다。</div>

項目	設定値	内容
2nd	<p><input checked="" type="radio"/> Disabled (オプションの CD-ROM ドライブユニット未搭載時のご購入時設定値)</p> <p><input checked="" type="radio"/> Floppy:1.4MB 3 1/2 (オプションの CD-ROM ドライブユニット搭載時のご購入時設定値)</p> <p><input type="checkbox"/> CD/DVD:SR244W</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 01</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (RAID) :I20 OSM</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (Network) :IBA 1.1.07 Slot 0418</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (Network) :IBA 1.1.07 Slot 0410</p>	<p>ブートするデバイスの順序を、1 ～ 3 番目まで指定します。</p> <p>「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00」～「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02」の「n」には、0 ～ 4 の任意の数字が表示されます。</p> <p>補足：</p> <p>▶ システム構成によって、「n」に表示される番号は異なります。 (ディスクレス構成の場合) BBS-n (Network) (オンボード SCSI 構成の場合) BBS-n (SCSI) → BBS-n (Network) の順 (SCSI アレイコントローラカード PG-140BL 使用の場合) BBS-n (RAID) → BBS-n (Network) の順</p> <p>「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00」～「BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02」は、オンボード SCSI に内蔵ハードディスクが接続されている場合に 표시됩니다。</p>
3rd	<p><input type="checkbox"/> Disabled</p> <p><input type="checkbox"/> Floppy:1.4MB 3 1/2</p> <p><input type="checkbox"/> CD/DVD:SR244W</p> <p><input checked="" type="radio"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 00 (HDD タイプ / Windows 2000 インストールタイプ / Linux タイプのご購入時設定値)</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 01</p> <p><input checked="" type="radio"/> BBS-n (SCSI) :00,AIC-7899 02 (Windows 2000 アレイタイプ / Linux アレイタイプのご購入時設定値)</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (RAID) :I20 OSM</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (Network) :IBA 1.1.07 Slot 0418</p> <p><input type="checkbox"/> BBS-n (Network) :IBA 1.1.07 Slot 0410</p>	
Try Other Boot Devices	<p><input type="checkbox"/> Yes</p> <p><input checked="" type="radio"/> No</p>	<p>Boot Device Priority で設定した以外のデバイスからのブートを行うかどうかを設定します。</p>

5.3.8 Server メニュー

サーバに関する設定を行います。

AMIBIOS NEW SETUP UTILITY - VERSION x.xx

Main	Advanced	Security	Boot	Server	Exit
------	----------	----------	------	--------	------

Post Watchdog15min

Boot WatchdogDisabled

Boot Watchdog Time01min

Boot Retry Counter7

Boot Watchdog Timeout BehaviorHard Reset

ASR&R Boot Delay00 min

Clear All Event LogNo

Memory Reduction Info.ClearNo

Remote ControlEnabled

CPU Reduction Info.ClearNo

ENTER IPMI SEL VIEWER[Enter]

[Setup Help]

F1 :About ↑↓ :Select Item -/+ :Change Values F5 :Setup Defaults
Esc :Exit ←→ :Select Menu Enter :Select ▶Sub-Menu F10:Save & Exit

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

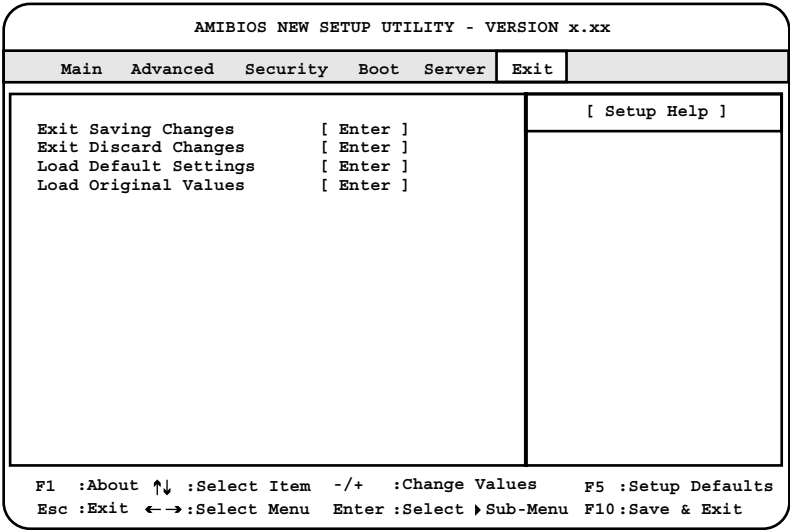
□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Post Watchdog	◎ Disabled □ 01min ~ □ 100min	Post Watchdog を有効にするかどうかを設定します。本機能を有効にすると、何らかの原因で POST で停止してしまった場合に、設定した時間がたつと自動的にシステムを再起動します。 注意事項： ▶ SCSI アレイコントローラカード搭載時に、SMOR (Storage Manager On ROM) にてリビルドなどの操作を行う場合や、オンボード SCSI の SCSI Select ユーティリティにて SCSI オプションの物理フォーマットまたは媒体検査を行う場合には、本設定をいったん「Disabled」にしてください。「Disabled」にしないと、操作中に POST Watchdog 機能が働き、システムが再起動してしまいます。
Boot Watchdog (続く)	◎ Disabled □ Enabled	Boot Watchdog (OS ブート監視) を有効にするかどうかを設定します。本機能を有効にすると、何らかの原因で OS の起動が停止してしまった場合に自動的にシステムを再起動します。 補足： ▶ 「OS ブート監視」機能の有効／無効は ServerView から設定できます。 注意事項： ▶ OS に ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。 (続く)

項目	設定値	内容
Boot Watchdog (続き)		<p>(続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ OS に ServerView をインストールしている場合にも、ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください。「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。 ▶ 本機能の設定時には『ServerView ユーザーズガイド』をご覧ください、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してご利用ください。
Boot Watchdog Time	<input checked="" type="radio"/> 01min <input type="checkbox"/> 02min ～ <input type="checkbox"/> 100min	Boot Watchdog の監視時間を設定します。
Boot Retry Counter	<input type="checkbox"/> 0 ～ <input checked="" type="radio"/> 7	オペレーティングシステムの起動に失敗した場合の起動再試行回数を設定します。
Boot Watchdog Timeout Behavior	<input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> Hard Reset <input type="checkbox"/> Power Down <input type="checkbox"/> Power Cycle	何らかの原因で OS の起動が停止してしまった場合に、Boot Watchdog Time で設定した監視時間が過ぎたあとどう処理するかを設定します。
ASR&R Boot Delay	<input checked="" type="radio"/> 00min ～ <input type="checkbox"/> 30min	ASR&R (Automatic Server Reconfiguration & Restart) 機能のリブートまでの時間を設定します。
Clear All Event Log	<input checked="" type="radio"/> No <input type="checkbox"/> Yes	すべてのイベントログを消去します。
Memory Reduction Info.Clear	<input checked="" type="radio"/> No <input type="checkbox"/> Yes	故障メモリのステータスをクリアします。
Remote Control	<input checked="" type="radio"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled	<p>本機能を有効にすることにより、RS-232C 経由で本サーバの電源の投入や切断、リセットを行うことができます。</p> <p>本機能の詳細については、「7.4 リモートコントロール機能について」(→ P.133)を参照してください。</p>
CPU Reduction Info.Clear	<input checked="" type="radio"/> No <input type="checkbox"/> Yes	故障 CPU のステータスをクリアします。
ENTER IPMI SEL VIEWER	【Press Enter】	<p>IPMI SEL VIEWER を起動します。</p> <p>IPMI セルビューワを表示します。内容については、「6.6 イベントログ」(→ P.122)を参照してください。</p>

5.3.9 Exit メニュー

BIOS Setup を終了します。



各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Exit Save Changes	【Press Enter】	現在の設定をCMOSに保存して、BIOSセットアップユーティリティを終了します。
Exit Discard Changes	【Press Enter】	現在の設定を保存しないで、BIOS セットアップユーティリティを終了します。前回保存した設定内容が有効となります。
Load Default Values	【Press Enter】	本サーバの初期値を読み込んで表示します。
Load Original Values	【Press Enter】	BIOS セットアップユーティリティの起動時に有効であった値を読み込んで表示します。

5.4 SCSI Select ユーティリティを使う

SCSI Select ユーティリティは、以下の場合に使用します。

- ・ 本サーバ購入時に設定値を確認する場合
- ・ SCSI ホストコントローラや SCSI 装置の設定の変更や確認を行う場合
- ・ SCSI オプションの物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

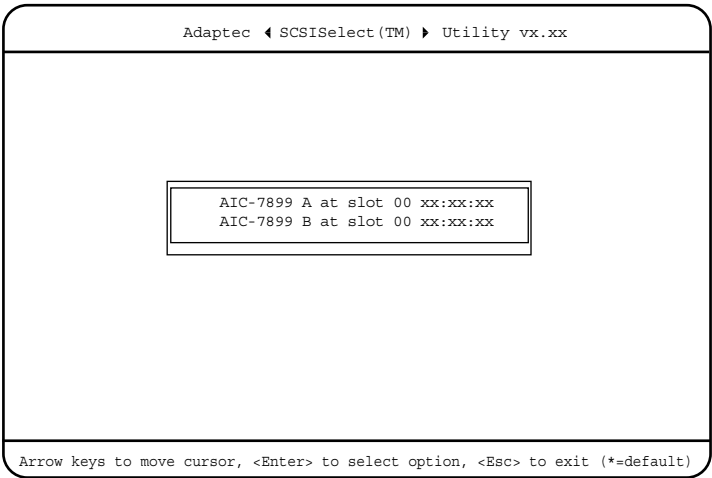
5.4.1 SCSI Select ユーティリティの起動方法

SCSI Select ユーティリティの起動と終了の方法は以下のとおりです。

■ SCSI Select ユーティリティの起動方法

SCSI Select ユーティリティの起動方法は、以下のとおりです。

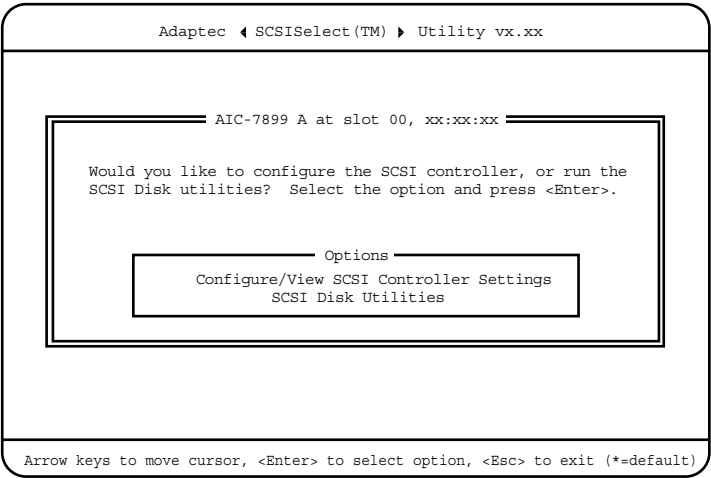
- 1** サーバ起動時（POST 実行中）に、「Press <Ctrl>+<A> for SCSISelect (TM) Utility」と表示されている間に【Ctrl】 + 【A】 キーを押します。
Bus:Device:Channel を選択する画面が起動します。



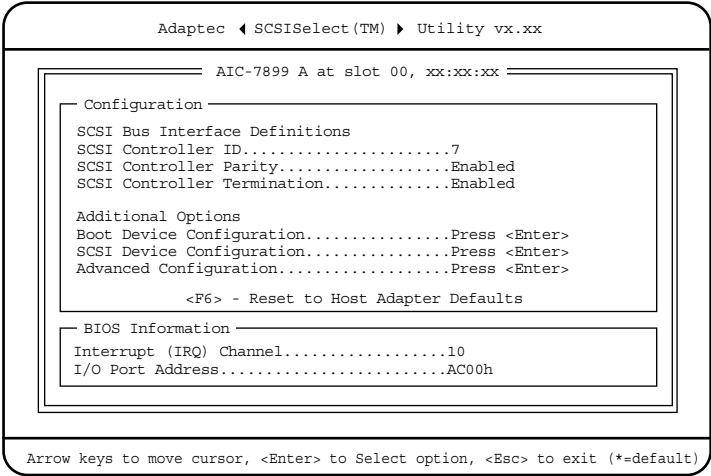
- 2** Bus:Device:Channel を選択し、【Enter】 キーを押します

Bus:Device:Channel	対応する SCSI コネクタ	備考
02:03:A	Wide SCSI コネクタ A	内蔵ハードディスクユニット用
02:03:B	Wide SCSI コネクタ B	外付けオプション装置用

SCSI Select ユーティリティのメインメニューが表示されます。



- 3** 項目を選択し、【Enter】キーを押します。
選択した項目のメニューが表示されます。



- 4** 各メニューから各設定を行います。

■ 設定値の変更方法

SCSI Select ユーティリティの設定値を変更する方法は以下のとおりです。

- 1** 【↓】【↑】キーを押して、設定を変更したい項目を選択します。
【↓】【↑】キーを押すと、選択項目が上下に動きます。
- 2** 【Enter】キーを押します。
サブメニューがある項目はサブメニューが表示されます。サブメニューがない項目は設定値が変更されます。
- 3** サブメニューも、Main メニューと同様に操作します。
【↓】【↑】キーを押して変更したい項目を選択し、【Enter】キーを押します。さらにサブメニューがある場合は、サブメニューが表示され、サブメニューがない場合は、変更項目が表示されます。
変更項目では、【↓】【↑】キーを押して設定値を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4** 設定が終わったら、【Esc】キーを押します。
変更した設定を保存するかどうかのメッセージ画面（「Save Changes Mode?」）が表示されます。保存して初期画面に戻る場合は「Yes」を、保存しないで初期画面に戻る場合は「No」を選択し、【Enter】キーを押します。

■ 各キーの役割

キー	キーの役割
【↑】【↓】	カーソルを移動します。
【Enter】	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】	前のメニューに戻ります。 SCSI Select ユーティリティ初期画面では、SCSI Select ユーティリティを終了します。
【F5】	SCSI Select ユーティリティ初期画面において、表示モードをカラーとモノクロで切り替えます。

■ SCSI Select ユーティリティの終了方法

SCSI Select ユーティリティの終了方法は以下のとおりです。

- 1** Main メニューで、【Esc】キーを押します。
SCSI Select ユーティリティを終了するかどうかのメッセージ画面（「Exit Utility?」）が表示されます。終了する場合は「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。
SCSI Select ユーティリティが終了します。
- 2** 再起動する旨の通知メッセージ「Please press any key to reboot」が表示されたら、どれかキーを押します。
システムが再起動します。

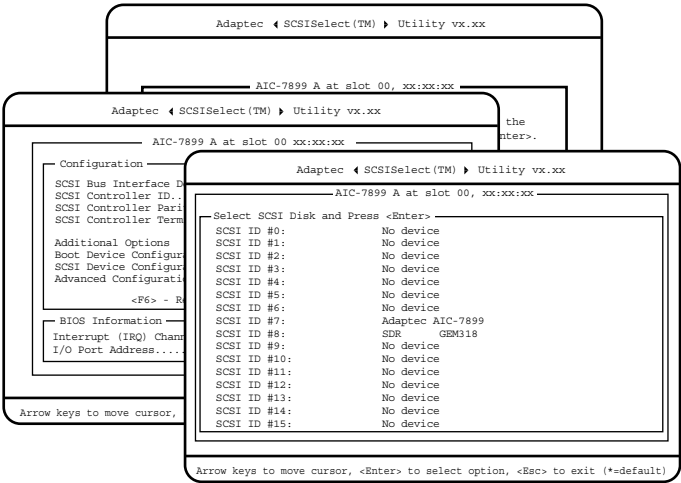
POINT

- ▶ SCSI カード、およびその SCSI バス上の SCSI デバイスの設定を行う場合
 - ・ SCSI カードのユーティリティについては、各製品の取扱説明書を参照してください。
 - ・ SCSI Select ユーティリティでの設定は、各 SCSI バスに対して行ってください。

5.4.2 メニューと項目一覧

SCSI Select ユーティリティには、初期画面のほか以下のオプション画面があります。

- ・ Configure/View Host Adapter Setting オプション画面
SCSI バスインタフェースの定義、および追加オプションの設定が行えます。
- ・ SCSI Disk Utilities オプション画面
SCSI バス上のすべてのデバイスをスキャンして、SCSI ID ごとにリストを表示します。



次に、それぞれのメニュー項目を一覧で説明します。各項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

■ **Configure/View Host Adapter Setting オプション画面**

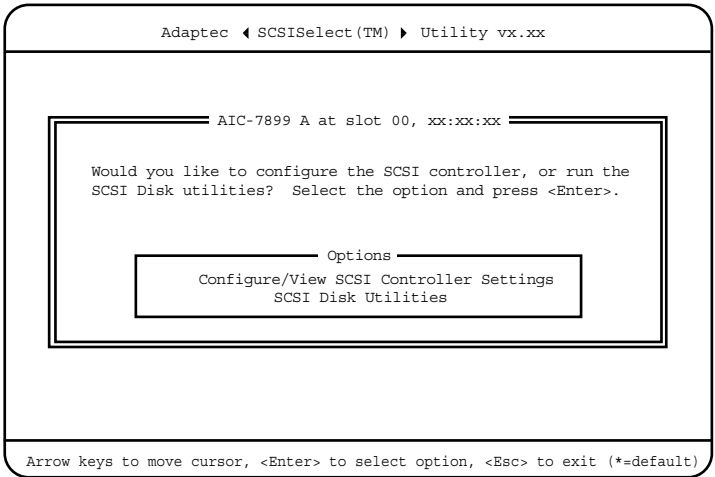
項目	説明
SCSI Bus Interface Definitions	
SCSI Controller ID	ホストコントローラの SCSI ID を設定します。
SCS Controller Parity	データのパリティチェックを行うかどうかを設定します。
SCSI Controller Termination	ホストコントローラの SCSI 終端（ターミネータ）を設定します。
Additional Options	
Boot Device Configuration	OS のブートを試みるハードディスクの SCSI ID を設定します。
SCSI Device Configuration	SCSI バス上の各 SCSI デバイスの詳細構成情報を設定します。
Advanced Configuration	SCSI BIOS の各種設定を行います。

■ **SCSI Disk Utility メニュー**

項目	説明
Select SCSI Disk and press	SCSI バスの全デバイスをスキャンし、SCSI ごとにリストを表示します。

5.4.3 Main メニュー

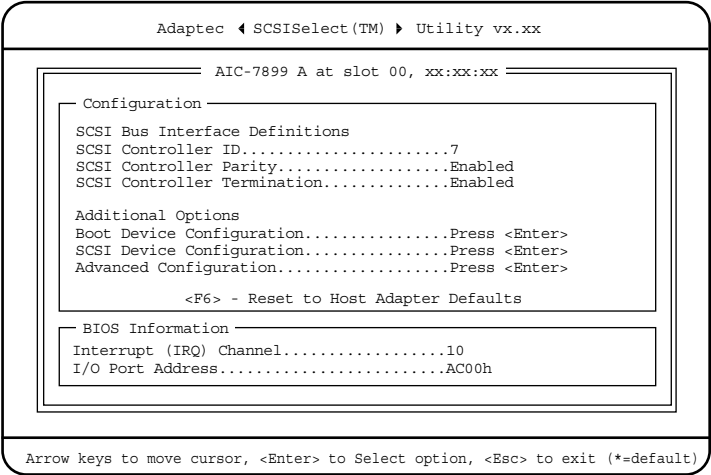
ここでは、Main メニューについて説明します。
SCSI Select ユーティリティを起動し、変更するバスチャネルを変更すると、最初にこのメニューが表示されます。



【↑】【↓】キーを押して設定を変更したいメニューにカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、メニューが表示されます。

5.4.4 Configure/View SCSI Controller Setting メニューの詳細

ここでは、Configure/View Host Adapter Setting メニューの設定項目の詳細について説明します。Configure/View Host Adapter Setting メニューは、SCSI ホストコントローラ全体の設定を行います。



各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
SCSI Controller ID	■ 7 □ 0 ～ 15	ホストコントローラの SCSI ID を、0 ～ 15 の範囲で設定します。
SCSI Controller Parity	□ Disabled ■ Enabled	ホストコントローラが、SCSI バスからデータを読み込むとき常にデータのパリティチェックを行い、SCSI デバイスからの正しいデータ転送を確認するかどうかを設定します。
SCSI Controller Termination	□ Disabled ■ Enabled	ホストコントローラの SCSI 終端（ターミネータ）を有効にするかどうかを設定します。
Boot Device Configuration	【Press Enter】	ホストコントローラを表示します。
SCSI Device Configuration	【Press Enter】	SCSI バス上の各 SCSI デバイスの詳細構成情報を設定します。
Advanced Configuration	【Press Enter】	SCSI BIOS の各種設定を行います。

■ Boot Device Configuration サブメニュー

ホストコントローラを表示します。

Boot Device Configuration

Single Image

Master SCSI Cotroller.....AIC-7899 B at slot 00 03:06:01

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Single Image	—	—
Master SCSI Controller	—	ホストコントローラを表示します。

■ SCSI Device Configuration サブメニュー

SCSI バス上の各 SCSI デバイスの詳細構成情報を設定します。

Adaptec ◀ SCSISelect(TM) ▶ Utility vx.xx

SCSI Device Configuration

SCSI Device ID	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7
Sync Transfer Rate(MB/Sec).....	160	160	160	160	160	160	160	160
Initiate Wide Negotiation.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Enable Disconnection.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Send Start Unit Command.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Options Listed Below Have No EFFECT if Int 13 Support is Disabled								
BIOS Multiple LUN Support.....	No	No	No	No	No	No	No	No
Include in BIOS Scan.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
SCSI Device ID	#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14	#15
Sync Transfer Rate(MB/Sec).....	160	160	160	160	160	160	160	160
Initiate Wide Negotiation.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Enable Disconnection.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Send Start Unit Command.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes
Options Listed Below Have No EFFECT if Int 13 Support is Disabled								
BIOS Multiple LUN Support.....	No	No	No	No	No	No	No	No
Include in BIOS Scan.....	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes	yes

Arrow keys to move cursor, <Enter> to select option, <Esc> to exit (*=default)

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Sync Transfer Rate(MB/Sec)	<input type="checkbox"/> ASYN <input type="checkbox"/> 10.0 <input type="checkbox"/> 13.4 <input type="checkbox"/> 16.0 <input type="checkbox"/> 20.0 <input type="checkbox"/> 26.8 <input type="checkbox"/> 32.0 <input type="checkbox"/> 40.0 <input type="checkbox"/> 53.4 <input type="checkbox"/> 80.0 <input checked="" type="radio"/> 160.0	SCSI ホストコントローラがサポートする最大同期転送速度を設定します。 注意事項： ▶ バックアップキャビネット（PRIMERGY S10）を使用して、サーバ本体に内蔵光磁気ディスクユニットを接続する場合、「ASYN」（非同期転送設定）に設定を変更してください。
Initiate Wide Negotiation	<input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> Yes	ホストコントローラが Wide SCSI デバイスを取り扱うかどうかを設定します。
Enable Disconnection	<input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> Yes	ホストコントローラが、SCSI デバイスに対し、SCSI バスからの切断（ディスコネクション）を許可するかどうかを設定します。 SCSI バスからの切断が許可される場合、SCSI デバイスが SCSI バスから一時的に切断している間に、ホストコントローラがその SCSI バス上で他のオペレーションを実行できます。ホストコントローラに 2 台以上の SCSI デバイスを接続する場合に有効です。
Send Start Unit Command	<input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> Yes	ホストコントローラが、SCSI デバイスにスタートユニットコマンド（SCSI コマンド 1B）を送信するかどうかを設定します。 このオプション設定と SCSI デバイスのハードウェア設定（スイッチブロックの設定など）の組み合わせによって、サーバ本体の電源にかかる負荷を軽減するため、サーバ起動時にホストコントローラが SCSI デバイスに 1 台ずつ順次電源を投入していくことができます。 この設定は、ホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。
BIOS Multiple LUN Support	<input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> Yes	複数の LUN がある SCSI デバイスをサポートするかどうかを設定します。
Include in BIOS Scan	<input type="checkbox"/> No <input checked="" type="radio"/> Yes	ホストコントローラの SCSI が SCSI デバイスのデバイスドライバ（ソフトウェア）を用いずにサポートするかどうかを設定します。 この設定は、ホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。 補足： ▶ 「No」に設定した SCSI デバイスを制御するためには、別途デバイスドライバが必要です。 ▶ SCSI デバイスである光磁気ディスクユニットを接続している場合、本設定を「No」に設定することによってサーバ本体に電源を入れた後に光磁気ディスク媒体の有無を確認しないため、起動時間を約 1 分間削減できます。

■ Advanced Configuration サブメニュー

SCSI BIOS の各種設定を行います。

Adaptec ◀ SCSISelect(TM) ▶ Utility vx.xx

Configuration AIC-7899 A at slot 00, xx:xx:xx

SCSI Bus Interface Definitions

SCSI Controller ID.....7

Advanced Configuration

Reset SCSI Bus at IC Initialization.....Enabled

Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization.....Enabled

Extended Int13 Translation for DOS Drives > 1 Gbyte.....Enabled

Post Display Mode.....Verbose

SCSI Controller Int 13 Support.....Enabled

Options Listed Below Have NO EFFECT if Int 13 is Disabled

Domain Validation.....Enabled

Support Removable Disks Under Int 13 as Fixed Disks.....Disabled

BIOS Support for Bootable CD-ROM.....Enabled

Interrupt (IRQ) Channel.....11

I/O Port Address.....1800h

Arrow keys to move cursor, <Enter> to select option, <Esc> to exit (*=default)

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

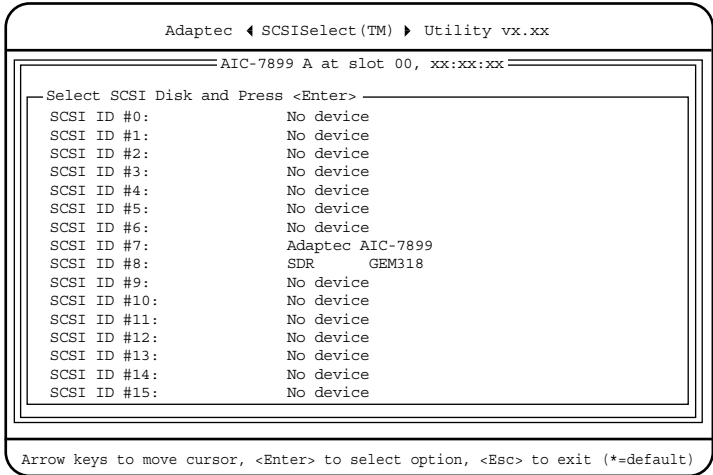
□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Reset SCSI Bus at IC Initialization	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled	サーバ起動時に、ホストコントローラが SCSI バスのリセット信号を出すかどうかを設定します。 「Enabled」に設定すると、ホストコントローラの初期化の際に SCSI BIOS が SCSI バスをリセットし、それから 2 秒後に SCSI オプションのスキャンを開始します。
Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization	<input type="checkbox"/> Disabled ■ Enabled	電源を入れた時に SCSI Select ユーティリティを起動するためのメッセージを CRT 画面上に表示するかどうかを設定します。
Extended Int 13 Translation for DOS Drives > 1 GByte	<input type="checkbox"/> Disabled ■ Enabled	1GB (1024MB) より大きい記憶容量をもつ SCSI 固定ディスクドライブのための拡張トランスレーション機能の有効／無効を設定します。 「Disabled」に設定すると、すべての SCSI 固定ディスクドライブに対して、64 ヘッド、トラック当たり 32 セクタの標準トランスレーション方式を採用します。 「Enabled」に設定すると、1GB 以上の SCSI 固定ディスクドライブに対しては、255 ヘッド、トラック当たり 63 セクタの拡張トランスレーション方式をとり、1GB 以下の SCSI 固定ディスクドライブに対しては、64 ヘッド、トラック当たり 32 セクタの標準トランスレーション方式を採用します。 この設定は、ホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。

項目	設定値	内容
Post Display Mode	<input checked="" type="radio"/> Verbose <input type="radio"/> Silent <input type="radio"/> Diagnostic	<p>POST 画面に表示する、ホストアダプタや SCSI デバイスなどの情報量を設定します。</p> <p>情報は、「Verbose」に設定すると表示され、「Silent」に設定すると表示されません。詳細な情報を表示したい場合は、「Diagnostic」に設定します。</p>
SCSI Controller Int 13 Support	<input type="checkbox"/> Disabled: NOT Scan <input type="checkbox"/> Disabled: Scan bus <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	<p>ホストコントローラの SCSI BIOS の有効／無効を設定します。</p> <p>ホストコントローラに接続されている SCSI 固定ディスクドライブからサーバをブートする場合は、有効に設定します。</p> <p>無効に設定する場合、SCSI カードの POST 時に SCSI デバイスのスキャンを行うかどうかを選択できます。</p> <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本設定を有効にしなければ、SCSI Select ユーティリティ内のいくつかのオプション設定が機能しません。
Domain Validation	<input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="checkbox"/> Enabled	<p>実際にデバイスとデータ転送を行い、転送速度を最適化する Domain Validation を行うかどうかを設定します。</p>
Support Removable Disks Under Int 13 as Fixed Disks	<input checked="" type="radio"/> Disabled <input type="radio"/> Boot Only <input type="radio"/> All Disks	<p>リムーバブル・ディスクユニット（光磁気ディスクユニット）を SCSI BIOS の下で、SCSI 固定ディスクドライブとしてサポートするかどうかを設定します。</p> <p>「Boot Only」に設定するとブートデバイスに指定されたリムーバブル・ディスクユニットのみが、「All Disks」に設定すると SCSI BIOS でサポートしているすべてのリムーバブル・ディスクユニットが、SCSI 固定ディスクドライブとして扱われます。</p> <p>この設定はホストコントローラの SCSI BIOS が「Enabled」に設定されている場合にのみ有効となります。</p>
BIOS Support for Bootable CD-ROM	<input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> Enabled	<p>CD-ROM からのブートを行うかどうかを設定します。</p>

5.4.5 SCSI Disk Utilities メニューの詳細

ここでは、SCSI Disk Utilities メニューの設定項目の詳細について説明します。
本ユーティリティでは、SCSI バスの全デバイスをスキャンし、SCSI ID ごとにリストを表示します。



各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入時設定値 ■：変更禁止

項目	設定値	内容
Format Disk	—	選択したハードディスクに対して、物理フォーマットを行います。 注意： ▶ 本項目の物理フォーマットは、選択したハードディスクの全データを消去します。この機能を使う前には必ずバックアップを取っておいてください。物理フォーマットが開始されると、中断することはできません。 ▶ 物理フォーマット中にサーバ本体の電源を切ったり、リセットなどを行うとハードディスクなどが破損するおそれがあります。
Verify Media	—	選択した SCSI オプションの媒体（メディア）のベリファイ（検査）を行います。不良ブロックが検出された場合、その割り付けを解除するかどうかプロンプト・メッセージが表示されます。「Yes」を選択すると、そのブロックは使用されなくなります。 補足： ▶ 媒体のベリファイは、【Esc】キーを押すことでいつでも中断できます。

5.5 BIOS 設定情報の退避／復元

本サーバには、BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の退避、復元処理を行う Server Management Tools が添付されています。

Server Management Tools を利用すると、本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって消去された設定情報を元の状態に復元できます。

Server Management Tools は、本サーバに添付の「Server Management Tools」ディスクに含まれています。

⚠ 注意



- 次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。

- ・本サーバを初めて使用する場合
- ・BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
- ・本サーバのハードウェア構成を変更した場合、具体的には、CPU、メモリ、ベースボードあるいは PCI カードの増減・変更があった場合

ここでは、Server Management Tools を使用するための準備、退避手順、復元手順および注意事項について説明します。

■ Server Management Tools を使用するための準備

Server Management Tools を使用するためには、以下のものを用意してください。

- ・本サーバに添付の ServerStart CD-ROM
- ・本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」
- ・本サーバに添付の「Server Management Tools」ディスク

■ Server Management Tools による BIOS 情報の退避

BIOS 情報の退避手順を以下に示します。

⚠ 注意



- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

- 1 電源を入れ、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu

1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。
作成方法の詳細については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

- 2 「Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。

DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。

- 3 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

以下のコマンドを入力して、BIOS 情報の退避を行います。

```
A:\>read.bat 【Enter】
```

⚠ 注意



- Server Management Tools で既に退避処理を行ったことがある場合は、フロッピーディスク内に「CMOS.TXT」があります。これらのファイルを上書きすると BIOS 情報を復元する場合に正常に終了しない場合があるため、他のフロッピーディスクに移動、ファイル名を変更、または以下のコマンドを入力して削除してください。

```
A:\>del CMOS.TXT 【Enter】
```

- 4 正常に BIOS 情報を退避できた場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Normal End
```

- 5 退避情報ファイルが生成されていることを確認してください。

次のコマンドを入力して、以下のファイルが生成されていることを確認してください。

```
A:\>dir 【Enter】
CMOS.TXT
```

- 6 BIOS 情報の退避処理完了しました。

以上で、退避処理が完了しましたので、電源を切ってもかまいません。

■ Server Management Tools による BIOS 情報の復元

本サーバの内蔵バッテリーの消耗などによって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が消去された場合、以下の手順で BIOS 情報の復元処理を行ってください。

⚠ 注意



- プログラム実行中は電源を切らないでください。



- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

- 1 電源を入れ、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----

1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

🔍 POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。
作成方法の詳細については『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

- 2 「Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。
DOS プロンプトが表示されます。

- 3 BIOS 退避情報ファイルが、フロッピーディスクにあることを確認してください。

次のコマンドを入力し、以下のファイルがあることを確認してください。

```
A:\>dir 【Enter】
CMOS.TXT
```

4 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の復元を行います。

```
A:\>write.bat 【Enter】
```

5 正常に BIOS 情報を復元できた場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Normal End
```

6 BIOS の情報が有効になるのは次回のシステム再起動後になりますので、速やかにサーバを再起動してください。

手順 1 と手順 2 を繰り返し、DOS プロンプト画面を表示させます。復元作業は完了です。電源を切ってもかまいません。

⚠ 注意



- Server Management Tools で BIOS 情報の退避／復元作業を実行中に以下のメッセージが表示されて処理が一時中断する場合があります。

```
Insert disk with \COMMAND.COM in drive A
```

```
Press any key to continue . . .
```

この場合は以下のようにしてください。

- ・フロッピーディスクを「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」に交換して任意のキーを押します。
- ・以下のメッセージが表示されたら「Server Management Tools」ディスクをもう一度セットし直して任意のキーを押します。

```
Insert disk with batch file
```

```
Press any key to continue . . .
```

■ 注意事項

- Server Management Tools は、本サーバ専用です。他システムでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムを破壊する可能性があります。
- Server Management Tools は、BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避／復元することができます。内蔵 SCSI 装置や増設カードの BIOS 情報については退避復元できません。
- Server Management Tools は、上記方法でサーバを起動した状態で実行してください。他のフロッピーディスクやハードディスクから起動された状態で Server Management Tools を実行しないでください。実行した場合、システムを破壊する可能性があります。
- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないように注意してください。取り出した場合、フロッピーディスクのデータ破壊だけでなくシステムの状態が不安定となる可能性があります。絶対に行わないでください。
- Server Management Tools を実行中に次に示すエラーメッセージが表示される可能性があります。表に示す対処に従ってください。なお、次に示すメッセージ以外が表示された場合は担当保守員に連絡してください。

メッセージ	対処
Write protect error writing drive A. Abort, Retry, Fail?	セットされたフロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクト状態を解除したあと、 【R】 キーを押してください。
Not ready writing drive A. Abort, Retry, Fail?	フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされていない状態です。正しいフロッピーディスク（「Server Management Tools」ディスク）をセットしたあと、 【R】 キーを押してください。
Data Save Error End. Data Write Error End.	以下の原因が考えられます。フロッピーディスクの状態を再確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・フロッピーディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクトを解除してから再度実行してください。 ・フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。 ・フロッピーディスクの内容が異常です。再度、「Server Management Tools」を作成してください。BIOS 情報の復元中に発生した場合は、BIOS セットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS 情報の退避処理も行ってください。 ・セットされたフロッピーディスク内に BIOS 情報を復元するためのファイルが存在しません。BIOS 情報を退避したフロッピーディスクをセットしてから再度実行してください。
その他のメッセージ	担当保守員に連絡してください。

第 6 章

保守について

この章は、日常のお手入れの方法やトラブル発生時の解決方法などの保守情報について解説しています。

章目次

6.1	本サーバの確認	110
6.2	お手入れ	111
6.3	バックアップ	115
6.4	トラブルシューティング	117
6.5	エラーメッセージ	120
6.6	イベントログ	122
6.7	保守員に連絡するときは	126

6.1 本サーバの確認

状態表示ランプやサーバ監視ツールで、サーバ本体の状態を確認してください。

■ 各種ランプの確認

本サーバには、ハードウェアの各種状態を表示するランプ（LED）が付いています。
サーバ起動時などに、各種ランプでサーバの状態を確認してください。各状態表示ランプの位置と機能については、「第1章 名称と働き」（→ P.11）を参照してください。

■ サーバ監視ツール（ServerView）

ServerView は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうか監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下におかれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されるため早期発見ができます。これにより、サーバ管理者は早期に対応してシステム異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

ServerView およびその他の高信頼ツールの概要とインストールについては、『ソフトウェアガイド 第1章 概要』および『ソフトウェアガイド 第5章 高信頼ツール』を参照してください。

6.2 お手入れ

未然にトラブルを防止するためにも、定期的にサーバ本体や各種オプション装置のお手入れを行ってください。

⚠ 警告



- お手入れをする前に、本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。また、本サーバに接続してある周辺装置も電源を切り、本サーバから取り外してください。感電の原因となります（「3.3 電源を切る」（→ P.29））。

6.2.1 サーバ本体のお手入れ

柔らかい布で乾拭きします。乾拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、サーバ本体に水が入らないようにご注意ください。

6.2.2 キーボードのお手入れ

柔らかい布で乾拭きします。

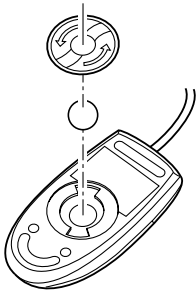
6.2.3 マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布で乾拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、以下のとおりです。

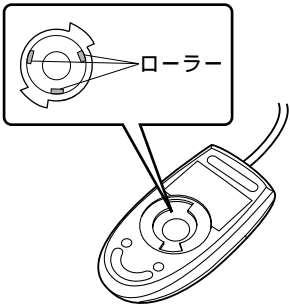
- 1 マウスの裏ボタンを取り外します。
マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



- 2** ボールを取り出して、水洗いします。
マウスを引っ繰り返し、ボールを取り出します。その後、水洗いします。



- 3** マウス内部をクリーニングします。
マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



- 4** ボール、裏ボタンを取り付けます。
ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。以下のクリーニングフロッピーディスクを使い、3 カ月に 1 回程度の割合で清掃してください。

品名	商品番号
クリーニングフロッピーマイクロ	0212116

クリーニング方法は、以下のとおりです。

⚠ 注意



- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
ServerView の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----

1.Server Management Tool
2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
3.Basic(RAIDUTIL)
4.Basic(Japanese Environment)
5.HDD firmware update
6.System Setup Utility(SSU) for N800
```

POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。作成方法の詳細については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。
- 2 「4.Basic (Japanese Environment)」を選択し、【Enter】キーを押します。
DOS プロンプトが表示されます。
 - 3 以下のコマンドを入力し、clndsk.exe を実行します。
A:¥>clndsk 0 【Enter】
 - 4 「クリーニングディスクをドライブ 0 にセットして【Enter】キーを押してください。」と表示されます。
 - 5 クリーニングフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。

- 6** 以下のメッセージが表示されたら、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブに挿入して【R】キー（再試行）を入力してください。

「ヘッドクリーニングが終了しました。」
エラーです。読み取り中 ドライブA
中止（A），再試行（R），失敗（F）？

- 7** DOS プロンプトが表示されたら終了です。
A: ¥>

6.2.5 各オプション装置について

各オプション装置のお手入れについては各オプション装置の取扱説明書を参照してください。

6.3 バックアップ

本サーバは信頼性の高い部品やハードディスクを使用しておりますが、万一の故障に備え、データの定期的なバックアップを必ず実施してください。

6.3.1 バックアップの必要性

サーバのデータがバックアップされていれば、ハードウェアの故障や操作ミスなどによりハードディスクユニット内のデータが破壊された場合でも、バックアップデータからシステムを復旧させることが可能です。バックアップが作成されていないと、お客様の大切なデータが失われてしまいます。システムを安心して運用していただくために、定期的なバックアップを必ず実施してください。

6.3.2 バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用

バックアップの運用方法はご使用になるネットワーク OS やアプリケーション、システム運用方法によって異なります。そのため、弊社担当営業にご相談の上で次のものを準備してバックアップを実施してください。

- バックアップ装置（DDS4 ドライブなど）
- バックアップソフトウェア
（OS 標準提供のバックアップ用ソフトウェア、ARCserve、Changer Option など）
- バックアップの運用方法（スケジュールなど）
バックアップ装置およびソフトウェアは弊社純正品をご使用ください。バックアップ媒体（テープなど）の保管にあたっては保管条件をお守りください。
- バックアップの運用に関する留意事項
（詳細については各装置の取扱説明書を参照ください）

ーヘッドクリーニングの実施

磁気テープ装置では、磁気媒体から染み出る汚れや浮遊塵埃により、ヘッド汚れが発生し、これらの汚れを取り除くためにヘッドクリーニングが必要です。装置がクリーニング要求を表示した場合は、ヘッドクリーニングを実施してください。特に DDS 装置は、定期的なヘッドクリーニングが行われない場合、磁気ヘッドに汚れがこびり付いて通常のヘッドクリーニングでは除去できなくなり、装置が使用不能になる場合があります。

また、クリーニング媒体は使用回数に限度がありますので、寿命を管理してください。寿命の過ぎたクリーニング媒体を使用しても、クリーニング効果はありません。特にライブラリ装置での自動バックアップではこの点にご注意ください。

－媒体の寿命管理

媒体は消耗品であり、定期的な交換が必要です。

寿命の過ぎた媒体を使い続けるとヘッド汚れを加速するなど、装置に悪影響を与えます。

媒体の寿命は、装置の設置環境、動作状態、バックアップソフトウェアの種類、運用条件により大きく変化しますが、早めの交換をお勧めします。

寿命の目安にするため、媒体に使用開始日を表示してください。

－媒体のローテーション運用

1 巻の媒体でバックアップを繰り返すような運用では、バックアップに失敗した場合、一時的にでもバックアップデータがなくなる状態になります。また、バックアップ中にハードディスクが壊れた場合は、復旧不能な状態になります。

バックアップは数本の媒体をローテーションして運用してください。

－媒体入れ置き運用の禁止

媒体は装置内では磁気記録面が露出しており、この状態が長く続くと浮遊塵埃の影響を受けやすくなります。この状態が少なくなるように媒体は使用前にセットし、使用後は取り出して、ケースに入れて保管してください。

また、磁気テープ装置では、媒体が取り出される時にテープに管理情報の書き込み処理を行うものがあります。装置に媒体を入れたまま電源を切るとこの処理が行われないため、異常媒体が作成される場合があります。

サーバ／装置の電源を切る場合は、装置から媒体を取り出してください。

－バックアップ終了後のデータの検査

バックアップソフトウェアには、バックアップ終了後に"データの検査"の実行を指定できるものがあります。この指定を行うとバックアップ終了後に媒体に書き込んだデータを読み出し、書き込まれたデータの検査が行われますが、媒体の使用回数が増えるため、その媒体をバックアップに使用できる回数は少なくなります。

ハードウェアにより、データの書き込み後の読み取り確認（Read after Write）が行われる装置では本指定は必須ではありません。

－バックアップ終了後の媒体の排出（イジェクト）

バックアップソフトウェアには、バックアップ終了後に媒体をドライブから排出するように指定できるものがあります。この指定を行うとバックアップ終了後にテープが巻き戻され、媒体がドライブから排出されます。

オートローダ／ライブラリ装置では必ず本機能の実行を指定してください。サーバ内蔵の装置で本指定を行うとサーバの構造によっては排出された媒体がドライブを覆う筐体カバーにあたる場合があります。この場合はドアを開けておくか媒体の排出は行わないようにしてください。

－媒体ラベルの種類と貼り付け位置

媒体に名前などを表示する場合は、媒体に添付されているラベルを使用してください。

また、各装置の媒体にはラベルを貼ることのできる場所が決められています。

装置故障の原因となりますので、決められた以外の場所にはラベルを貼らないようにしてください。

－データの保管

データを長期に保管する場合は、温湿度管理され、磁場の影響の少ない場所に保管してください。

6.4 トラブルシューティング

本サーバを操作してみて、うまく動作しない場合やディスプレイにエラーメッセージが表示される場合、「故障かな?」と思ったときには、以下のことを確認してください。

なお、オプションの装置については、オプション装置に添付の取扱説明書を参照してください。

■ サーバ本体

- 本体の電源が入らない、本体前面の電源ランプがつかない。
 - ー本体の電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。コンセントに接続してください。
 - 『はじめにお読みください』を参照してください。
- アクセス表示ランプがつかない。
 - ーサーバ本体が故障している可能性があります。担当保守員に連絡してください。
 - 担当保守員に連絡する場合は、「6.7 保守員に連絡するときは」(→ P.126)を参照してから連絡してください。
- ディスプレイにエラーメッセージが表示された。
 - ー「6.5 エラーメッセージ」(→ P.120)を参照してください。
- LAN ドライバインストール時にエラーメッセージが表示される、LAN が正常に動作しない。
 - ーLAN 以外の拡張カードを含め、システム資源の競合が起きている可能性があります。いったんすべての LAN ドライバを削除し、システム資源の競合が起きていないことを確認し、システム再起動後に、再度 LAN ドライバをインストールしてください。
 - ー「第 5 章 ハードウェアの設定について」(→ P.69) および『ソフトウェアガイド 付録』を参照してください。
- 拡張カードを増設したときに、他の拡張カードまたはオンボードデバイスが認識されない場合があります。その場合は、認識されなくなった拡張カードまたはオンボードデバイスのドライバを再度インストールしてください。

■ ディスプレイ

- ディスプレイの電源が入らない。
 - ーディスプレイの電源ケーブルをコンセントに接続してください。
 - 『はじめにお読みください』およびディスプレイの取扱説明書を参照してください。
- 画面に何も表示されない。
 - ーディスプレイのケーブルが正しく接続されていますか。接続されていなければ、サーバ本体の電源を切ってから、ケーブルを正しく接続しなおしてください。
 - 『はじめにお読みください』を参照してください。
 - ーディスプレイのブライトネスボリュームとコントラストボリュームが正しく調節されていますか。調節されていなければ、正しく調節してください。
 - ディスプレイの取扱説明書を参照してください。
 - ー拡張 RAM モジュールのシステム領域が異常の可能性があります。担当保守員に連絡してください連絡してください。

- 入力した文字が表示されない、マウスカーソルが動かない。
 - ーキーボードおよびマウスが正しく接続されていますか。接続されていない場合は、サーバ本体の電源を切ってからケーブルをサーバ本体に正しく接続してください。
 - 『はじめにお読みください』を参照してください。
- 画面が揺れる。
 - ー近くにテレビやスピーカなどの強い磁界が発生するものがあるならば、それらをディスプレイから離して置いてください。
 - また、近くで携帯電話の着信を受けると、揺れることがあります。ディスプレイの近くで携帯電話を使用しないようにしてください。

■ フロッピーディスクドライブ

- フロッピーディスクの読み書きができない。
 - ーヘッドが汚れていませんか。汚れている場合、クリーニングフロッピーディスクでクリーニングしてください。
 - 「6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング」(→ P.112)を参照してください。
- フロッピーディスクへの書き込みができない。
 - ーヘッドが汚れていませんか。汚れている場合、クリーニングフロッピーディスクでクリーニングしてください。
 - 「6.2.4 フロッピーディスクドライブのクリーニング」(→ P.112)を参照してください。
 - ーフロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか。
 - ライトプロテクトを書き込み可能な位置にしてください。

■ 内蔵ハードディスクユニット

- ユニットが正常に動作しない。
 - 「4.6 内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し」(→ P.54)を参照してください。
 - ー内蔵ケーブルが正しく接続されていますか。接続されていない場合は、内蔵ケーブルを正しく接続してください。
 - ージャンパピンが正しく設定されていますか。設定されていない場合は、ジャンパピンを正しく設定し直してください。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブユニット (オプション)

- データの読み込みができない。
 - ーCD を正しくセットしていますか。セットされていない場合は、CD のレーベル面を正しくセットしてください。
 - ーCD が汚れていませんか。汚れていたら、乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。
 - ーCD に傷がついていたり、反っていませんか。傷ついていたりする場合は、CD を交換してください。

■ 外付け SCSI 装置

- ユニットが正常に動作しない。
 - 「4.7.3 SCSI カード／SCSI アレイコントローラカードの留意事項」－「■ 内蔵ハードディスクユニットをアレイシステム構成にする形態」(→ P.64) を参照してください。
 - －ジャンパピンが正しく設定されていますか。設定されていない場合は、ジャンパピンを正しく設定し直してください。
 - －SCSI 規格の装置の場合、SCSI ID および終端抵抗が正しく設定されていますか。設定されていない場合は、SCSI ID および終端抵抗を正しく設定し直してください。

6.5 エラーメッセージ

本サーバによる POST（Power On Self Test：本サーバ起動時に行われる装置チェック）エラーメッセージについて説明します。

POST 中にエラーが発生した場合、以下のメッセージが表示されます。

メッセージ	内容
8042 Gate ? A20 Error	ベースボードの異常です。担当保守員に連絡してください。
Address Line Short!	ベースボードの異常です。担当保守員に連絡してください。
x : Drive Error	x : はドライブレターを示します。ハードディスクドライブまたはフロッピーディスクドライブが正しく挿入されているか確認してください。 BIOS セットアップユーティリティでハードディスクドライブの設定が正しいか確認してください。 そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
x : Drive Failure	x : はドライブレターを示します。ハードディスクドライブまたはフロッピーディスクドライブが正しく挿入されているか確認してください。 BIOS セットアップユーティリティでハードディスクドライブまたはフロッピーディスクドライブの設定が正しいか確認してください。 そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
CH-2 Timer Error	担当保守員に連絡してください。
CMOS Battery State Low	バッテリー電圧が低下しています。担当保守員に連絡してください。
CMOS Checksum Failure	BIOS セットアップユーティリティで現在の設定値を修正するか、またはご購入時設定値に設定してください。 そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
CMOS System Options Not Set	BIOS セットアップユーティリティで現在の設定値を修正するか、またはご購入時設定値に設定してください。 そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
CMOS Display Type Mismatch	BIOS セットアップユーティリティで現在の設定値を修正するか、またはご購入時設定値に設定してください。 そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。

メッセージ	内容
CMOS Memory Size Mismatch	BIOS セットアップユーティリティで現在の設定値を修正するか、またはご購入時設定値に設定してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
CMOS Time and Date Not Set	BIOS セットアップユーティリティ内の時刻と日付が設定されていません。BIOS セットアップユーティリティを起動して、時刻と日付を設定してください。
Diskette Boot Failure	フロッピーディスクから起動できません。起動ディスクを交換してください。
DMA Error	DMA コントローラのエラーです。担当保守員に連絡してください。
FDD Controller Failure	BIOS がフロッピーコントローラを見つけられません。担当保守員に連絡してください。
HDD Controller Failure	BIOS がハードディスクコントローラを見つけられません。ハードディスクドライブが正しく挿入されているか確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
INTR #1 Error	割り込みチャネル 1 のエラーです。担当保守員に連絡してください。
INTR #2 Error	割り込みチャネル 2 のエラーです。担当保守員に連絡してください。
Invalid Boot Diskette	フロッピーディスクから起動できません。起動ディスクを交換してください。
Keyboard Error	キーボードが正しく接続されているか確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
KB/Interface Error	キーボードコネクタ接続に異常があります。キーボードが正しく接続されているか確認してください。そのあともこのメッセージが表示される場合は担当保守員に連絡してください。
No ROM BASIC	ハードディスクまたはフロッピーディスクにブートセクタが見つかりません。ブードデバイスを準備してください。
ON BOARD PARITY ERROR ADDR (HEX) = (XXXX) XXXX	メモリパリティエラーです。担当保守員に連絡してください。
CMOS not operational	CMOS RAM への読み書きができません。担当保守員に連絡してください。
Software Port NMI Inoperational	The software NMI 機能が正しく働いていません。担当保守員に連絡してください。

6.6 イベントログ

ここでは、以下の操作を行う方法について説明します。

- ・ イベントログの参照／消去
- ・ イベントログの採取

なお、エラーログが発生した場合は、Server Management Tools でログを保存し、担当営業員に連絡してください。

6.6.1 イベントログの参照／消去

■ イベントログの参照方法

イベントログの参照は、IPMI System Event Log Viewer を起動して行います。

- 1 BIOS セットアップユーティリティを起動します（「■ BIOS セットアップユーティリティの起動方法」（→ P.73））。
- 2 Server メニューの「IPMI SEL VIEWER」を選択し、【Enter】キーを押します。IPMI System Event Log Viewer 画面が表示されます。

```
IPMI System Event Log Viewer Ver.x,xxxxxx (Rev:x.x)

Most Recent Addition Time: yyyy/mm/dd hh:mm:ss
Most Recent Erase Time: yyyy/mm/dd hh:mm:ss
Total Entry Number: xxx

0106 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C9 00 02 F6 AE 89 3D 20 00 03 07 1F EF 07 FF FF
[CPU 2 PRESENT] Deassert!
0105 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C8 00 02 B4 AE 89 3D 20 00 03 07 1F EF 07 FF FF
[CPU 2 PRESENT] Deassert!
0104 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C7 00 02 B0 AE 89 3D 20 00 03 04 1D 01 52 00 16
[Power Fan2] Assert! Lower Critical ( 7670) RPM
0103 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C6 00 02 B0 AE 89 3D 20 00 03 04 1D 01 50 00 1E
[Power Fan2] Assert! Lower Non-critical ( 5265) RPM
0102 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C5 00 02 AE AE 89 3D 20 00 03 0D 26 70 01 FF FF
[HardDisk Fail] Assert!
0101 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C4 00 02 51 AE 89 3D 01 00 03 12 27 6F 01 FF FF
System Reconfigured Assertion
0100 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C3 00 09 4F AE 89 3D 20 00 03 09 24 6F 04 FF FF
[AC Lost] Assert!
0199 yyyy/mm/dd hh:mm:ss C2 00 02 BF 93 89 3D 20 00 03 07 1F EF 07 FF FF
[CPU 2 PRESENT] Deassert!

Esc:Exit, ↑/↓:Line Up/On, PgUp/PgOn:Previous/Next Page, R:Refresh, C:Clear
```

IPMI System Event Log Viewer には、以下のものが表示されます。

- ・ イベントログの通し番号
- ・ イベントログのタイプ
- ・ イベントログの検出時刻

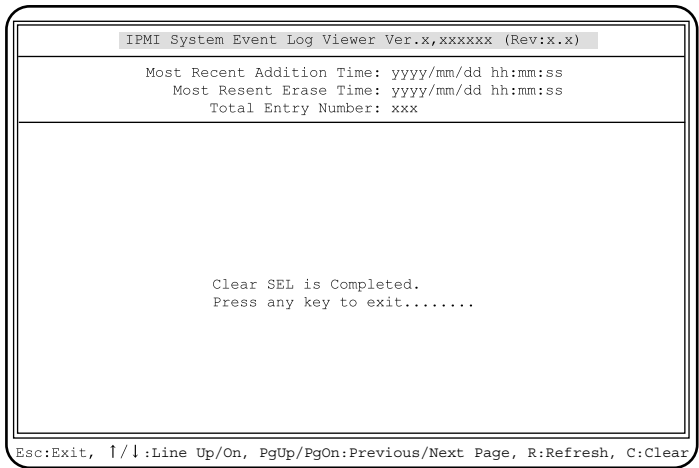
なお、イベントログの表示順序と時刻情報が前後する場合や、同一要因に対するイベントログが2回記録されることがあります。

IPMI System Event Log Viwer 画面でのキー操作を以下に示します。

キー	キーの役割
【↑】【↓】【PageUp】【PageDown】	画面をスクロールします。
【R】	最新の情報に更新します。
【C】	ログをクリアします。
【Esc】	IPMI System Event Log Viwer 画面を終了し、BIOS セットアップユーティリティ画面に戻ります。

■ ログの消去方法

- 1 IPMI System Event Log Viwer 画面で、【C】キーを押します。
以下の画面が表示され、イベントログが消去されます。



- 2 何かキーを押して、終了します。

POINT

- ▶ イベントログは、BIOS セットアップユーティリティの Server メニュー「Clear All Event Log」を「Yes」に設定しても消去できます。なお、イベントログを消去されるのは、次の起動時です。

6.6.2 インベトログの採取

イベントログを採取するツールは、本サーバに添付の Server Managemnet Tools に含まれています。

⚠ 注意



- Server Management Tools は、本サーバ専用です。他システムでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムを破壊するおそれがあります。



- Server Management Tools は、「■ イベントログの採取方法」(→ P.124) に示される方法でサーバを起動し、使用してください。
他のフロッピーディスクやハードディスクから起動された状態で本ツールを実行しないでください。実行した場合、システムを破壊するおそれがあります。



- フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。取り出した場合、フロッピーディスクのデータが破壊されるおそれがあります。

■ イベントログの採取方法

⚠ 注意



- ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する前に、ServerView の「OS ブート監視」機能が無効に設定されていることを確認してください(初期設定は無効です)。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。ServerView の詳細については『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

次の画面が表示されます。

MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.Server Management Tool
- 2.Basic(BIOS Environment Support Tools)
- 3.Basic(RAIDUTIL)
- 4.Basic(Japanese Environment)
- 5.HDD firmware update
- 6.System Setup Utility(SSU) for N800

🔍 POINT

- ▶ 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」は、ServerStart CD-ROM から作成しておく必要があります。
作成方法の詳細については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

2 「1.Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。

DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。

- 3** 本サーバに添付の「Server Management Tools V1.0L10」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

以下のコマンドを入力します。

```
A:¥>wsel.bat 【Enter】
```

- 4** イベントログファイルが生成されていることを確認します。

次のコマンドを入力して、以下のファイルが生成されていることを確認してください。

```
A:¥dir 【Enter】
```

```
SEL.LOG
```

6.7 保守員に連絡するときは

どうしても故障の原因がわからないときや、元の状態に戻せないときは、お買い上げの販売店または担当保守員に連絡してください。そのときに、事前に次のことを確認して、保守員に伝えられるようにしておいてください。

『はじめにお読みください』のコンフィグレーションシートおよび「7.5 障害連絡シート」（→ P.137）に必要事項を記入しておく、便利です。

- サーバ本体のモデル名と型名（サーバ本体底面のラベルに表示されています。）
- サーバ本体のセットアップ情報（取り付けてある内蔵オプションの種類や設定など）
- コンフィグレーション設定情報（BIOS セットアップユーティリティ、SCSI Select ユーティリティでの設定値）
- 使用している OS
- LAN/WAN システム構成
- 現象（何をしているときに何が起きたか、画面にどのようなメッセージが表示されたか。）
- 発生日時
- サーバ本体設置環境
- 各種ランプの状態

第 7 章

技術情報

この章は、サーバ本体の仕様および運用上の留意点について解説しています。

章目次

7.1 仕様	128
7.2 24 時間運用上の留意点	131
7.3 LAN 経由の電源投入／切断時の留意点	132
7.4 リモートコントロール機能について	133
7.5 障害連絡シート	137

7.1 仕様

ここでは、本サーバの本体仕様および内蔵ハードディスクユニットの仕様を説明します。

7.1.1 本体仕様

本サーバの仕様は、次のとおりです。

他の周辺装置の仕様については、各装置に添付の取扱説明書をご覧ください。

タイプ		Windows 2000 タイプ	Linux タイプ	HD タイプ
型名		PGL2BW1RK	PGL2BW1RG	PGL2BW1R
CPU	周波数／キャッシュ	インテル® Xeon™ プロセッサ 512K キャッシュ 1.8GHz 1 次キャッシュ：32KB 2 次キャッシュ：512KB		
	マルチ数	1 (最大 2)		
メモリ	標準	256MB (128MB-DDR DIMM × 1 枚)		
	増設単位	256MB / 512MB / 1GB / 2GB (2 枚 1 組)		
	最大容量	6GB (6 スロット 1GB DIMM × 6 枚)		
ビデオ RAM 容量		8MB		
グラフィックス		VGA チップ：ATI RAGE XL 648 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 1024 表示色：解像度、OS などによって異なる		
内蔵 CD-ROM ベイ		1 ベイ (オプション) 種類：24 倍速 CD-ROM ユニット (IDE)		
内蔵 3.5 インチハードディスクベイ		3 ベイ		
	標準	18.2GB / 10,000rpm (Ultra 160 SCSI)		
	増設単位	18.2GB / 36.4GB / 73.4GB		
	内蔵最大	73.4GB × 3 = 220.2GB		
拡張スロット		PCI × 3 (64bit/66MHz)		
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ (2 モード 1.44MB / 720KB) 標準搭載		
SCSI インタフェース		Ultra 160 SCSI × 2 (ベースボード標準搭載)		
ネットワーク		LAN (100BASE-TX / 10BASE-T) × 2 (ベースボード標準搭載)		
インタフェース		シリアル × 2、キーボード、マウス、モニタ、USB × 4		
キーボード／マウス		オプション		
外形寸法 (単位:mm)		横幅 430 (482:突起物含む) × 奥行き 656 × 高さ 45 (占有ユニット 1U)		
質量		最大 15kg		
内蔵時計精度		誤差 2 ～ 3 分 / 月		
消費電力		最大 275W / 990kJ/h		
電源		AC100V (50/60Hz) / 二極接地型		
電源ユニット		標準で 1 台、最大 1 台 (冗長電源なし)		
ファン		5 個		
エネルギー消費効率 (*)		インテル Xeon™ プロセッサ 1.8GHz 搭載時：J 区分、0.032 インテル Xeon™ プロセッサ 2.4GHz 搭載時：J 区分、0.025		

*) エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

タイプ		Windows 2000 アレイタイプ		
		18GB HDD タイプ	36GB HDD タイプ	73GB HDD タイプ
型名		PGL2BWRVK	PGL2AWRWK	PGL2BWRLK
CPU	周波数／キャッシュ	インテル® Xeon™ プロセッサ 512K キャッシュ 1.8GHz 1 次キャッシュ：32KB 2 次キャッシュ：512KB		
	マルチ数	1 (最大 2)		
メモリ	標準	256MB (128MB-DDR DIMM × 1 枚)		
	増設単位	256MB / 512MB / 1GB / 2GB (2 枚 1 組)		
	最大容量	6GB (6 スロット 1GB DIMM × 6 枚)		
ビデオ RAM 容量		8MB		
グラフィックス		VGA チップ：ATI RAGE XL 648 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 1024 表示色：解像度、OS などによって異なる		
内蔵 CD-ROM ベイ		1 ベイ (オプション) 種類：24 倍速 CD-ROM ユニット (IDE)		
内蔵 3.5 インチハードディスクベイ		3 ベイ		
	標準	18.2GB / 36.4GB / 73.4GB / 10,000rpm (Ultra 160 SCSI) × 3		
	増設単位	18.2GB / 36.4GB / 73.4GB		
	内蔵最大	73.4GB × 3 = 220.2GB		
ディスクアレイ		PG-140BL 搭載		
拡張スロット		PCI × 3 (64bit/66MHz)		
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ (2 モード 1.44MB / 720KB) 標準搭載		
SCSI インタフェース		Ultra 160 SCSI × 2 (ベースボード標準搭載)		
ネットワーク		LAN (100BASE-TX / 10BASE-T) × 2 (ベースボード標準搭載)		
インタフェース		シリアル × 2、キーボード、マウス、モニタ、USB × 4		
キーボード／マウス		オプション		
外形寸法 (単位：mm)		横幅 430 (482：突起物含む) × 奥行き 656 × 高さ 45 (占有ユニット 1U)		
質量		最大 15kg		
内蔵時計精度		誤差 2 ～ 3 分 / 月		
消費電力		最大 275W / 990kJ/h		
電源		AC100V (50/60Hz) / 二極接地型		
電源ユニット		標準で 1 台、最大 1 台 (冗長電源なし)		
ファン		5 個		
エネルギー消費効率 (*)		インテル Xeon™ プロセッサ 1.8GHz 搭載時：J 区分、0.032 インテル Xeon™ プロセッサ 2.4GHz 搭載時：J 区分、0.025		

*) エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

タイプ		Linux アレイタイプ	
		18GB HDD タイプ	36GB HDD タイプ
型名		PGL2BWRVG	PGL2BWRWG
CPU	周波数／キャッシュ	インテル® Xeon™ プロセッサ 512K キャッシュ 1.8GHz 1 次キャッシュ：32KB 2 次キャッシュ：512KB	
	マルチ数	1 (最大 2)	
メモリ	標準	256MB (128MB-DDR DIMM × 1 枚)	
	増設単位	256MB / 512MB / 1GB / 2GB (2 枚 1 組)	
	最大容量	6GB (6 スロット 1GB DIMM × 6 枚)	
ビデオ RAM 容量		8MB	
グラフィックス		VGA チップ：ATI RAGE XL 648 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 1024 表示色：解像度、OS などによって異なる	
内蔵 CD-ROM ベイ		1 ベイ (オプション) 種類：24 倍速 CD-ROM ユニット (IDE)	
内蔵 3.5 インチハードディスクベイ		3 ベイ	
	標準	18.2GB / 36.4GB / 73.4GB / 10,000rpm (Ultra 160 SCSI) × 3	
	増設単位	18.2GB / 36.4GB / 73.4GB	
	内蔵最大	73.4GB × 3 = 220.2GB	
ディスクアレイ		PG-140BL 搭載	
拡張スロット		PCI × 3 (64bit/66MHz)	
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ (2 モード 1.44MB / 720KB) 標準搭載	
SCSI インタフェース		Ultra 160 SCSI × 2 (ベースボード標準搭載)	
ネットワーク		LAN (100BASE-TX / 10BASE-T) × 2 (ベースボード標準搭載)	
インタフェース		シリアル × 2、キーボード、マウス、モニタ、USB × 4	
キーボード／マウス		オプション	
外形寸法 (単位: mm)		横幅 430 (482: 突起物含む) × 奥行き 656 × 高さ 45 (占有ユニット 1U)	
質量		最大 15kg	
内蔵時計精度		誤差 2 ～ 3 分 / 月	
消費電力		最大 275W / 990kJ/h	
電源		AC100V (50/60Hz) / 二極接地型	
電源ユニット		標準で 1 台、最大 1 台 (冗長電源なし)	
ファン		5 個	
エネルギー消費効率 (*)		インテル Xeon™ プロセッサ 1.8GHz 搭載時: J 区分、0.032 インテル Xeon™ プロセッサ 2.4GHz 搭載時: J 区分、0.025	

*) エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

7.1.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様

内蔵ハードディスクユニットの仕様を次に示します。

型名	PG-HDH81J	PG-HDH61J	PG-HDH71J	PG-HDH65J	PG-HDH85J
インタフェース	Ultra 160 SCSI				
記憶媒体	3.5 インチハードディスク				
記憶容量 (注 1)	18.2GB	36.4GB	73.4GB	18.2GB	36.4GB
最大データ転送速度	160MB/s (Ultra160)				
平均回転待ち時間	2.99ms			2.00ms	
回転数	10,000rpm			15,000rpm	
外形寸法 (W × D × H)	101.6 × 146.0 × 25.4 (mm)				
質量	0.85kg				

注 1：記憶容量は、フォーマット時、1GB=1000³ byte 換算です。

7.2 24 時間運用上の留意点

■ 無人運転について

装置として不慮の事故に対する安全性を高める必要から、オフィス内に適切な防災対策（耐震対策、煙探知器、温度センサーなど）が施され、かつ防災管理者（警備員、管理人など）が建物内に待機している必要があります。

■ 誤切断防止

誤って電源を切らないように、専用の電源（分電盤など）を準備することを推奨します。

7.3 LAN 経由の電源投入／切断時の留意点

本サーバでは、WOL（Wake Up On LAN）機能によってクライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を投入／切断することができます。

POINT

- ▶ サーバ本体の電源ケーブルを抜いた場合や、停電などで電源が切れた場合は、本サーバを再起動してください。再起動しない場合、WOL 機能が動作しません。
- ▶ 本サーバでは、オンボード LAN 1 が WOL 機能に対応しています。

■ Modem Ring On/Wake On Lan 設定の確認

BIOS セットアップユーティリティを起動し、Advanced メニューー Power Management Configuration サブメニューの「Modem Ring On/Wake On Lan」項目を「Enabled」に設定してください。

詳細は、「5.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」ー「■ Power Management Configuration サブメニュー」（→ P.82）を参照してください。

■ 電源投入／切断指示

Windows NT Server 4.0 をお使いの場合、「Power Management for Windows V1.1」により、LAN 経由での電源投入／切断指示ができます。本ソフトウェアは、サーバ／クライアントでそれぞれ必要となります。詳細は「Power Management for Windows V1.1」が格納されている ServerStart CD-ROM 中のオンラインマニュアル（Readme ファイル）を参照してください。

■ 電源投入／切断時の注意事項

LAN 経由で電源制御を行う場合は、必ず ServerView をインストールしてください。ServerView がインストールされていない場合は、OS のシャットダウン完了後、自動的に電源が切れません。

7.4 リモートコントロール機能について

本サーバのシリアルポートとパーソナルコンピュータ（PC）をクロスケーブルで接続し、PC から RS-232C 経由で、本サーバの電源切断／電源投入／リセットを行うことができます。

リモートコントロール機能を利用するには、以下の操作を行います。

- ・ 本サーバと PC の接続
- ・ Remote Control Setup ユーティリティを使用した本サーバ側の設定

⚠ 注意

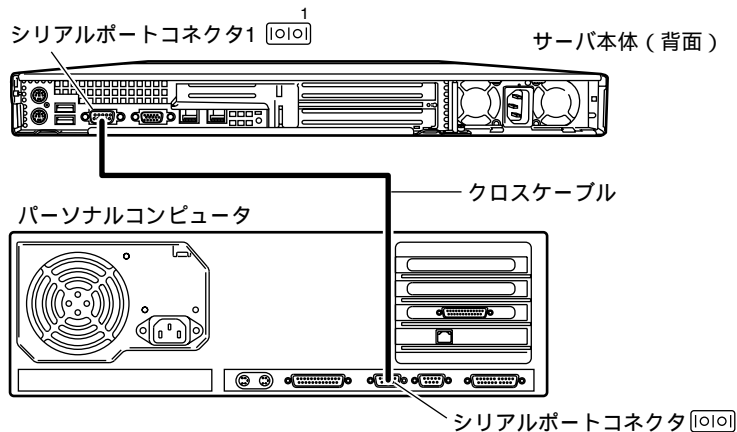


- RS-232C 経由でのリセット機能を使用する場合には、パーソナルコンピュータ上のターミナルソフトと Remote Control ユーティリティの通信速度および Flow 制御方法を同じ設定にする必要があります。

BIOS Console Redirection と併用する場合には、BIOS Console Redirection も同じ設定にする必要があります。

7.4.1 本サーバと PC の接続

本サーバと PC は、クロスケーブルで接続します。



⚠ 注意



- BIOS セットアップユーティリティを、以下のように設定する必要があります。

- ・ Advanced メニュー -> Advances Configuration サブメニューの Console Redirect を「COMA」に設定
- ・ Server メニューの Remote Control を「Enabled」に設定

7.4.2 Remote Control ユーティリティの操作

リモートコントロール機能を利用するには、Remote Control ユーティリティを使用して本サーバの通信速度やパスワードなどを設定する必要があります。

■ 接続

- 1 RS-232C クロスケーブルで、シリアルポートコネクタ 1 と管理端末とを接続します。
- 2 ターミナルソフトを使用して、コネクションを張ります。

⚠ 注意



● Windows 2000 のハイパーターミナルでは接続できません。

■ サーバ本体の操作

以下の操作は、管理端末上のターミナルソフトで行います。

- 1 【Ctrl】 + 【¥】 キーを押します。
以下のメッセージが表示されます。
PRIMERGY SERVER Remote Control Feature
2002 (c) FUJITSU / FUJITSU SIEMENS COMPUTERS All Right Reserved
Password:
- 2 パスワードを入力します。
ご購入時の状態ではパスワードは設定されていません。パスワードが設定されていない場合は、パスワードを入力せずに【Enter】キーを押します。
メニューが表示されます。

以下にメニューとその動作を示します。

```
1:Power On
2:Power Off
3:Reset
4:Shut Down
5:NMI
6:Customization
  (Support VT100 Only)
X:Exit

Please Key-In the number of command ...
```

メニュー	動作
Power On	サーバ本体の電源を入れます。
Power Off	サーバ本体の電源を切ります。
Reset	サーバ本体のリセットボタンを押します。

メニュー	動作
Shut Down	サーバ本体の電源ボタンを押します。Windows 2000 Server では、ACPI 機能を使ったシャットダウン操作となります。
NMI	本サーバでは未サポートです。
Customization (Support VT100 Only)	各設定を変更します。
Exit	メニューを終了します。

■ 設定の変更

```

1. Attention Key          1Ch
2. Password Setup
3. Timeout Value(Sec)    60
4. Baud Rate
5. Flow Control          9600
6. Save                  Disable
X. Exit

Please press <Enter> to execute.

```

メニュー	内容																																																
Attention Key	<p>メニューに入るためのキーのアサインを変更できます。【Enter】キーで、1 つずつ変化します。</p> <table><tr><th>キー</th><th>コード</th><th>キー</th><th>コード</th></tr><tr><td>Ctrl-A</td><td>0x01</td><td>Ctrl-P</td><td>0x10</td></tr><tr><td>Ctrl-B</td><td>0x02</td><td>Ctrl-T</td><td>0x14</td></tr><tr><td>Ctrl-C</td><td>0x03</td><td>Ctrl-U</td><td>0x15</td></tr><tr><td>Ctrl-D</td><td>0x04</td><td>Ctrl-V</td><td>0x16</td></tr><tr><td>Ctrl-E</td><td>0x05</td><td>Ctrl-W</td><td>0x17</td></tr><tr><td>Ctrl-F</td><td>0x06</td><td>Ctrl-X</td><td>0x18</td></tr><tr><td>Ctrl-G</td><td>0x07</td><td>Ctrl-Y</td><td>0x19</td></tr><tr><td>Ctrl-K</td><td>0x0B</td><td>Ctrl-Z</td><td>0x1A</td></tr><tr><td>Ctrl-L</td><td>0x0C</td><td>Ctrl-[</td><td>0x1B</td></tr><tr><td>Ctrl-N</td><td>0x0E</td><td>Ctrl-\</td><td>0x1C</td></tr><tr><td>Ctrl-O</td><td>0x0F</td><td>Ctrl-]</td><td>0x1D</td></tr></table>	キー	コード	キー	コード	Ctrl-A	0x01	Ctrl-P	0x10	Ctrl-B	0x02	Ctrl-T	0x14	Ctrl-C	0x03	Ctrl-U	0x15	Ctrl-D	0x04	Ctrl-V	0x16	Ctrl-E	0x05	Ctrl-W	0x17	Ctrl-F	0x06	Ctrl-X	0x18	Ctrl-G	0x07	Ctrl-Y	0x19	Ctrl-K	0x0B	Ctrl-Z	0x1A	Ctrl-L	0x0C	Ctrl-[0x1B	Ctrl-N	0x0E	Ctrl-\	0x1C	Ctrl-O	0x0F	Ctrl-]	0x1D
キー	コード	キー	コード																																														
Ctrl-A	0x01	Ctrl-P	0x10																																														
Ctrl-B	0x02	Ctrl-T	0x14																																														
Ctrl-C	0x03	Ctrl-U	0x15																																														
Ctrl-D	0x04	Ctrl-V	0x16																																														
Ctrl-E	0x05	Ctrl-W	0x17																																														
Ctrl-F	0x06	Ctrl-X	0x18																																														
Ctrl-G	0x07	Ctrl-Y	0x19																																														
Ctrl-K	0x0B	Ctrl-Z	0x1A																																														
Ctrl-L	0x0C	Ctrl-[0x1B																																														
Ctrl-N	0x0E	Ctrl-\	0x1C																																														
Ctrl-O	0x0F	Ctrl-]	0x1D																																														
Password	パスワードを設定します。																																																
Timeout Value (Sec)	タイムアウト値を 30 秒から 999 まで設定します。【Enter】キーで、1 つずつ変化します。																																																

メニュー	内容
Baud Rate	RS-232C の転送速度を変更します。 9600 bps または 19200bps を選択できます。管理端末側の設定と合わせてください。設定がちがうと、通信できなくなる場合があります。
Flow Control	RS-232C の制御方法を変更します。 管理端末側の設定と合わせてください。設定がちがうと、通信できなくなる場合があります。
Save	変更を保存します。 1. 「Are you save this setting ?」とメッセージが表示されたら、【Y】キーを押してください。 2. 「Next Time Use New Setting To Log Maybe need 10 sec to save setting」とメッセージが表示されますので、10 秒ほどお待ちください。変更内容が反映され、使用できます。

7.5 障害連絡シート

モデル名・型名	<input type="checkbox"/> PRIMERGY L250 (PG)		
OS			
設置環境			
LAN・WAN環境			
発生日時			
現象	何をしているときに何が起きたか。 画面にどのようなメッセージが表示されたか。		
		添付資料	有・無

オプション構成および設定内容は、『はじめにお読みください』のコンフィギュレーションシートを使用してください。

索引

い

イベントログ	122
インレット	14

え

エラーメッセージ	120
----------	-----

お

オンボード LAN	61
-----------	----

か

拡張カードの種類	57
拡張カードの取り付け	59
拡張 RAM モジュール	47
拡張 RAM モジュールの取り付け	49
拡張 RAM モジュールの取り外し	49

き

キーボード	16
キーボードコネクタ	14
キーボードのお手入れ	111

さ

サーバ本体のお手入れ	111
------------	-----

し

システム識別灯	13, 14
システム状態 LED	13
システムファン	15
ジャンパ	71
障害連絡シート	137
シリアルポートコネクタ 1	14
シリアルポートコネクタ 2	12

す

スロットの仕様	57
---------	----

て

ディスプレイコネクタ	14
電源スイッチ	13

電源ユニット	15
電源を入れる	28
電源を切る	29
電源 LED	14

と

搭載可能な拡張カード	58
トラブルシューティング (サーバ本体)	117
トラブルシューティング (ディスプレイ)	117
トラブルシューティング (フロッピー ディスクドライブ)	118
トラブルシューティング (外付け SCSI 装 置)	119
トラブルシューティング (内蔵ハード ディスクユニット)	118
トラブルシューティング (内蔵 CD-ROM ドライブユニット)	118

な

内蔵オプションの種類	38
内蔵ハードディスクドライブユニット	12
内蔵ハードディスクユニットの仕様	130
内蔵 CD-ROM ドライブベイ	15

は

ハードウェアのセキュリティ	20
ハードウェアの設定	70, 71
ハードディスクアクセス表示ランプ	12
ハードディスク故障ランプ	12
パスワードの削除/変更方法	22
パスワードの設定	21
パスワードの設定方法	21
バックアップ	115

ふ

ファイバーチャネルカード	61
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	12
フロッピーディスクドライブのクリーニ ング	112

フロッピーディスクドライブユニット	12
フロッピーディスクのセット	33
フロッピーディスクの取り出し	33

へ

ベースボード各部の名称	17
-------------	----

ほ

保守員に連絡するときは	126
保守用スイッチ	13
本体仕様	128

ま

マウス	16
マウスコネクタ	14
マウスのお手入れ	111

ら

ラックキー	26, 20
ラックドアを開ける	26

り

リセットスイッチ	13
リモートコントロール機能	133
リモートサービスボード	62

A

Alt キー	16
Application キー	16

B

Back space キー	16
BIOS 情報の退避	103
BIOS 情報の復元	105
BIOS セットアップユーティリティ	70, 72
BIOS セットアップユーティリティの起動	73
BIOS セットアップユーティリティの終了	74

C

Caps Lock 英数キー	16
CD-ROM ドライブユニット	12

CD-ROM のセット	35
CD-ROM の取り出し	36
CPU	15
Ctrl キー	16

D

Delete キー	16
DIMM スロット	15, 47

E

End キー	16
Enter キー	16
Esc キー	16

F

F キー	16
------	----

H

Home キー	16
---------	----

I

Insert キー	16
-----------	----

L

LAN カード	61
LAN1 LED	13
LAN2 LED	13

P

Page Down キー	16
Page Up キー	16
Pause キー	16
PCI スロット	14, 15
POST	120
Print Screen キー	16

R

Remote Control ユーティリティの操作	134
Remote Control Setup ユーティリティ	133, 134

S

Scroll Lock キー	16
Server Management Tools	103
Space キー	16

U

USB コネクタ	12, 14
----------------	--------

W

Wakeup On LAN 機能	132
Windows キー	16

その他

10/100/1000BASE-T コネクタ	14
3.5 インチストレージベイ	15

PRIMERGY L250

ハードウェアガイド
B7FH-1121-01-00

発行日 2002 年 12 月
発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。